

平成 19 年度事業報告

自 平成 19 年 4 月 1 日～至 平成 20 年 3 月 31 日

会長・理事 富 永 英 義

次期会長・理事	宮原 秀 夫	理 事	山本 浩 治	理 事	吉田 進
副会長・理事	安田 浩	理 事	得井 慶 昌	理 事	安藤 真
副会長・理事	雨宮 真人	理 事	西原 明 法	理 事	末永 康 仁
副会長・理事	津田 俊 隆	理 事	喜多 泰 代	理 事	小林 欣 吾
副会長・理事	伊藤 弘 昌	理 事	花澤 隆	理 事	間瀬 憲 一
理 事	萩本 和 男	理 事	篠田 庄 司	理 事	河内 正 夫
理 事	坂庭 好 一	理 事	古井 貞 熙	理 事	畑岡 信 夫
理 事	江村 克 己	理 事	羽鳥 光 俊	監 事	後藤 敏
理 事	高橋 達 郎	理 事	大石 進 一	監 事	平田 康 夫
理 事	森川 博 之				

事 業 概 況

平成 19 年度は昨年度に引き続き、本部とソサイエティが協力してソサイエティ独立採算化に向けた取組みを行った。

本部の活動としては、教育活動の展開並びに会員サービスの向上に継続して取り組んだ。ソサイエティでは論文誌のオンラインジャーナルの機関誌化を含めて独立採算化に向けて活動を強化した。以下に項目別の実施の概要を記す。

(○は平成 19 年度に新規に取り組むか、顕著な変化があったもの、・は継続的なもの示す。)

(1) 会員サービスの向上としては

- オンラインジャーナルは、平成 18 年 4 月から個人会員に対して和英オンラインジャーナルを機関誌として配信するサービスに切り替えた。この関連で残された課題である図書館等のサイトライセンス化の検討を継続して進めた。最初にシステムの機能追加を行い平成 18 年 10 月から無料配信の試行を開始し、アクセスデータの蓄積を行って本実施に向けて準備を推進した。試行に参加する特殊員の勧誘を進めたが十分な参加が得られるところまで到達しなかったので試行期間を 1 年間延長することとした。
- 次期総合版ハンドブックについて準備会でデータベース化したハンドブック(知識ベース)の構築に対して群編構成、編主任をほぼ固め、執筆段階に移った。
- 会員の定着及び会費収入の安定化を図るため平成 19 年度から会費を前納制に切り替えたが、これによって学生員から正員に切り替える段階で退会者数が減少する効果があることが確認された。
- 選奨委員会において、シニア会員制度の開始について検討を進め、次年度からの実施に向けて制度並びに規程類の整備を進め、理事会の承認を得た。
- 本会の 90 周年記念と会誌 1000 号記念に対して、それぞれ該当する 5 月と 9 月に特集号を発行した。
 - ・男女共同参画委員会は、昨年に続いて平成 20 年 3 月の総合大会会場に託児施設を開設して、女性会員が積極的に学会活動に参加できるように利便を図った。今後も継続する。
 - ・単行本として B5 判を含む新刊 3 点を発行した。

- ・学生ランチへの参加校数の増大を中心に学生会の活動を推進した。
- ・会誌の改善を更に進め、記事内容の見直しを推進し、より身近な機関誌とした。
- ・海外セクション代表者制度のもとで 7 セクションが活動を継続した。
- ・先端オープン講座を開催した。
- ・大学の教科書「電子情報通信レクチャーシリーズ」の充実を促進した。

(2) 教育活動としては

本会の教育活動の充実を図り、その活動を束ねるために組織された「教育活動協議会」の下で、教育活動関係の 4 委員会(生涯教育委員会、ア krediteーション(Accreditation Policy Council)委員会、CPD(Continuing Professional Development)委員会、小中高生科学教室委員会)が活動を展開した。

- 「小中高生科学教室委員会」の中で青少年の科学離れを阻止するための「子供の科学教室」活動を継続した。支部との連携を更に発展させ、地域に根ざした活動とするために支部から委員の参加を求め意見交換を行った。また、従来と同様に平成 19 年度も会員の寄付を募り活動の充実を図った。
- ・電気学会、情報処理学会と協力した「電気電子・情報系 CPD 協議会」において新しい会員サービス実現に向けて、平成 18 年 11 月から開始した CPD 会員システムの試行運用を継続して実施した。
- ・「認定企画実施委員会」を「ア krediteーション委員会(APC)」と改称し、大学の教育プログラムの審査・認定に関して、平成 19 年度も電気学会、情報処理学会と連携を密に取りながら活動した。また、本会が主催する JABEE(Japan Accreditation Board for Engineering Education)審査講習会(従来の JABEE 自主研修会)を 2 回開催した。

(3) ソサイエティに関連する活動としては

- 通信ソサイエティが学会全体で共通に利用できるように改修した研究会用電子投稿システムを平成 19 年度にすべてのソサイエティに対して導入した。

○平成 16 年 4 月に創刊したペーパーレスの電子ジャーナル (ELEX: IEICE Electronics Express) は順調に成長し、投稿数も大幅に増加し、平成 20 年度にはインパクトファクターが付与される段階に至った。

・ソサイエティ独立採算化に関して、通信ソサイエティは平成 18 年度から、エレクトロニクスソサイエティは平成 19 年度から本格的実施に移行した。基礎・境界ソサイエティ及び情報・システムソサイエティは平成 20 年度の本格的実施に向けて規程・体制等を整備した。独立採算化に向けた情報の共有化を企画室リソースマネジメント WG で推進したが、途中で新たに発足させた WG に役割を移した。

・「FIT (Forum on Information Technology) ; 情報科学技術フォーラム」を情報・システムソサイエティ、ヒューマンコミュニケーショングループ、情報処理学会の合同で開催した。

(4) その他の事項としては

○「電気・情報関連学会連絡協議会」において直面している長期的な共通問題に対して協議会は 7 月に第 1 回を開催し、平成 20 年 1 月には「日本学術会議と電気情報系 5 学会連携の会」として 5 学会の会長並びに関係理事が学術会議の委員と話し合いを行った。その結果、毎年 1 月は次年度からも継続的に同じ形態で会合を持つこととなった。

・平成 15 年度科学研究費補助金 (5 年間) によって関連学会と協力して取り組んできた卓越技術データベース作成を本年度も継続して推進した。

・論文誌の一層の質の向上を図るため、査読委員並びに編集委員を対象とした論文査読に関する説明会を総合大会の会場で開催した。

以下に各事業の実施状況を報告する。(敬称略)

I. 本部事業

1. 出版に関する事項

1.1 会誌の発行状況 (定款 第 6 条イ)

全会員に共通の場として重要なメディアである会誌は、平成 19 年 4 月から 20 年 3 月まで 12 冊、合計 395,900 部 (月平均 32,991 部) を発行配布した。

また、5 月に本会創立 90 周年記念号、及び 9 月に 1000 号記念特集号を発行した。

平成 19 年度の会誌記事の内容・件数及びページ数は次のとおりである。

種 類	件数	ページ数	種 類	件数	ページ数
講 演	2	19	寄 書	2	7
4 月小特集 (ブロードバンド無線通信を支えるマイクロ波ミリ波技術)	8	41	回 想	0	0
5 月創立 90 周年記念特集 (時代をひらく電子情報通信技術—技術がもたらした変革、そして更なる飛躍—)	14	87	学生/教養のページ	8	30
6 月小特集 (暗号技術の証明可能安全性)	7	32	オピニオン	3	10
8 月小特集 (情報通信技術によるユビキタス医療への挑戦)	7	45	ニュース解説	23	36
9 月 1000 号記念特集 (夢・創・想・感)	37	106	総合報告	1	16
			ソサイエティのページ	1	2
			情報ネット—いま、学会では—	1	15
			男女共同参画のページ	9	18
			学生会報告	2	14
			支部だより	3	1
			予定目次	12	1

10 月特別小特集 (ハイパビューマン技術が開く新世界)	7	27	学会ニュース	0	0
11 月特集 (環境を守る)	14	75	慶 賀	1	1
12 月小特集 (バイオメトリクスセキュリティの実用化最前線)	7	32	追 悼 抄	4	4
1 月特別小特集 (私の七転び八起き)	8	18	国際会議	34	9
1 月小特集 (32nm 世代 VLSI を担う More Moore 技術—三次元ゲート MOS-FET—)	5	22	図書紹介	16	8
2 月小特集 (次世代のサービス品質技術)	8	36	国内文献目次		
3 月小特集 (次世代コンピュータを支える超高速・超高密度インタコネクション技術)	10	56	図書寄贈一覧		7
			本会だより		18
			編集室		12
			役員等口絵		8
			総会・選奨		70
			フェロー口絵		2
			会誌総目次		11
			学会編集室		6
			会 報	0	0
特別解説	1	13	計		1,126
解 説	27	169	巻 頭 言		12
講 座	7	42	目 次		36
			会 告		626
			論文誌目次		132
			合 計		1,932

*その他: 広告 (カラー, 前付, 後付等) 263 ページ

1.2 広告賞について (定款 第 6 条チ)

平成 19 年広告賞として下記の 2 点を選定した。

【カラー広告部門】(株)NTT ドコモ

「世界へ、ドコモと！」(2.9 月号)

【一色刷り広告部門】日立電線株式会社

「“伝える”をきわめる」(5 月号)

1.3 ハンドブックについて (定款 第 6 条ト)

(第 8 次) ハンドブック/知識ベース委員会において次期総合版ハンドブック (知識ベース) を構築するための具体的な検討を行った。

全体の構成として、群・編を決定し、それぞれの編について編主任・編幹事の選定・委嘱を行った。また、各編の目次案と執筆委員の検討を行い、順次執筆依頼を行った。また、知識ベースを継続的に運営していくためのビジネスモデルの検討を開始した。

1.4 単行本 (定款 第 6 条ト)

平成 19 年度は新刊 3 点 3,000 部、重版 6 点 2,000 部を発行した。

なお、平成 16 年度から刊行を開始した B5 判単行本について、平成 19 年度は第 4 弾として「レーダボラリメトリの基礎と応用——偏波を用いたレーダリモートセンシング——」を刊行した。

新刊書は次のとおりである。

新 刊 書 名	判型	発行年月日	頁数	部数
モバイル通信の無線回路技術	A5	H19.9.15	274	1,000
仕事に生かす知的財産の知識——技術者の心得——	A5	H19.12.20	152	1,000
レーダボラリメトリの基礎と応用——偏波を用いたレーダリモートセンシング——	B5	H19.12.25	192	1,000

1.5 教科書「電子情報通信学会大学シリーズ」(全 59 巻)

(定款 第 6 条ト)

(コロナ社委託出版)

昭和 55 年 8 月以降既刊書目 52 点、平成 19 年度は重版 10 点を発行した。

1.6 教科書「電子情報通信レクチャーシリーズ」(全 65 巻)
(定款 第 6 条ト) (コロナ社委託出版)

大学院及び学部の学生を対象とし、併せて一般勉学者の参考に供するための新シリーズの教科書として平成 19 年度は新刊 3 点、重版 9 点を発行した。

新刊書は次のとおりである。

新刊書名	発行年月日	頁数	部数
インターネット工学	H19.9.21	162	1,000
結像光学の基礎	H20.2.25	174	1,000
情報通信ネットワーク	H20.3.7	192	1,000

(平成 14 年 3 月第 1 回配本以降通算 19 点)

2. 会議に関する事項 (定款 第 6 章)

2.1 第 81 回通常総会

平成 19 年 5 月 25 日 (土) 午後 2 時から機械振興会館において第 81 回通常総会を開催した。社員総数 170 名に対し、出席社員数 120 名 (委任状を含む) で、定款第 45 条に定める社員総数の過半数の出席に達した。伊澤会長を議長として下記議案を付議して、いずれも原案どおり可決承認した。

- 平成 18 年度事業報告について
- 平成 18 年度収支決算報告について
- 平成 19 年度事業計画 (案) について
- 平成 19 年度収支予算 (案) について

2.2 理事会、評議員会

年度内に 8 回の理事会を開催し、うち 3 回を評議員会と合同で開催した。

2.3 支部長会議

平成 20 年 3 月 19 日 (水) に開催し、各支部の活動報告、本部一支部間の意見交換を行った。

2.4 海外セクション代表者制度会議

国際委員会は海外セクション代表者 9 名が、各セクションにて講演会等を企画・実施することに協力するとともに、本会活動の周知・宣伝に努めた。また、第 6 回海外セクション代表者会議を総合大会期間中 (北九州学術研究都市) の 3 月 20 日に開催し、バンコク、北京、韓国、上海、シンガポール、台北から代表者が出席し意見交換を行った。

各セクションにおいての講演会等の実施件数は次のとおりである。

セクション	件数	セクション	件数
バンコク	1	韓国 (Information)	1
北京	1	上海	1
インドネシア	0	シンガポール	1
韓国 (Communication)	1	台北	0
韓国 (Electronics)	1		

3. 規格調査会に関する事項 (定款 第 6 条ニ)

委員会議を 4 回、専門委員会及び小委員会を 94 回開催した。国際標準化に関して取り扱った IEC 文書は 670 件で、そのうち 190 件に対して日本の意見を回答した。

委員会名	委員長名	委員数	開催数			
規格調査委員会	羽鳥 光俊	16	4			
専門委員会名	専門委員長名	専門 (委)	小 (委)	専門 (委)	小 (委)	
1 電子部品のデータ要素	堀内 一	0	26	0	6	
2 通信用伝送線及びマイクロ波受動部品	小林 禎夫	11	42	2	15	
3 周波数制御・選択デバイス	関根 好文	24	22	3	15	
4 光ファイバ	羽鳥 光俊	20	65	4	18	
5 デザインオートメーション	神戸 尚志	17	35	5	5	
6 無線通信用送信装置	小川 博世	16	23	1	10	
7 電子通信用語	吉村 久乗	24	0	0	0	
8 電子通信記号		14	0	0	0	
9 複雑システムの安全規格検討委員会	鈴木 喜久	10	0	6	0	
合 計			152	213	25	69
			365		94	

4. 選奨に関する事項

本年度の各選奨は所定の手続きによって選考が進められ、次のとおり各受賞者を決定した。

4.1 功績賞 (第 69 回) (定款 第 6 条ホ)

- 伊澤 達夫 (東工大)
- 釜江 尚彦 (N I I)
- 平田 康夫 (A T R)
- 古井 貞熙 (東工大)
- 宮原 秀夫 (NICT)

以上 5 名

4.2 業績賞 (第 45 回) (定款 第 6 条ホ、へ)

選奨規程第 9 条イ項によるもの (業績名五十音順)

業 績	貢 献 者 (所 属)
効率的離散アルゴリズム設計の先駆的研究	西関 隆夫 (東北大) 周 暁 (東北大)
情報理論における符号構成法に関する先駆的研究	植松 友彦 (東工大)
UWB 電波伝搬および既存ワイヤレスシステムに対する干渉の先駆的研究	小林 岳彦 (東京電機大) 高田 潤一 (東工大)

以上 3 件

選奨規程第 9 条ロ項によるもの (業績名五十音順)

業 績	貢 献 者 (所 属)
LSI クロック配線方式の開発	枝廣 正人 (NEC)
通信 EMC 技術の開発と国際標準化への貢献	田島 公博 (NTT) 雨宮 不二雄 (NTT-AT) 小林 隆一 (NTT)
指静脈認証技術の実用化	三浦 直人 (日立) 長坂 晃朗 (日立) 宮武 孝文 (日立)

以上 3 件

4.3 論文賞 (第 64 回) (定款 第 6 条ホ、へ)

(分冊別掲載年月順)

A	論文名 Traitor Tracing Scheme Secure against Adaptive Key Exposure and its Application to Anywhere TV Service 著者名 小川一人 (NHK 技研), 花岡悟一郎 (産総研)・今井秀樹 (中大) 掲載年月 平成 19 年 5 月 (EA)
A	論文名 DCT 係数の正負符号と位相限定相関との関係について 著者名 伊藤 泉・藤吉正明・貴家仁志 (首都大東京) 掲載年月 平成 19 年 7 月 (A)
A	論文名 Construction Algorithm for Network Error-Correcting Codes Attaining the Singleton Bound 著者名 松本隆太郎 (東工大) 掲載年月 平成 19 年 9 月 (EA)

B	論文名 著者名 掲載年月	ターボ等化の基礎、及び情報理論的考察 松本 正 (北陸先端大), 衣斐信介 (阪大) 平成 19 年 1 月 (B)
B	論文名 著者名 掲載年月	通信ネットワーク故障による社会的影響度分析法 船越裕介・松川達哉 (NTT), 渡邊 均 (東京理科大) 平成 19 年 4 月 (B)
B	論文名 著者名 掲載年月	電波伝搬特性を活用した秘密情報の伝送・共有技術 岩井誠人・笹岡秀一 (同志社大) 平成 19 年 9 月 (B)
C	論文名 著者名 掲載年月	A 130-nm CMOS 95-mm ² 1-Gb Multilevel AG-AND-Type Flash Memory with 10-MB/s Programming Throughput 倉田英明 (日立), 佐伯俊一 (ルネサス北日本セミコンダクタ), 小林 孝・笹子佳孝・有金 剛 (日立), 吉田敬一・高瀬賢順・吉竹貴之・土屋 修・池田良広・鳴海俊一 (ルネサステクノロジ), 金光道太郎 (日立超 LSI システムズ), 伊澤和人 (ルネサステクノロジ), 古沢和則 (日立超 LSI システムズ) 平成 18 年 10 月 (EC)
C	論文名 著者名 掲載年月	OFDM Error Vector Magnitude Distortion Analysis 山之内慎吾・國弘和明・樋田 光 (NEC) 平成 18 年 12 月 (EC)
C	論文名 著者名 掲載年月	Light-Induced Self-Written Optical Waveguides 各務 学・山下達弥・米村正寿・松井崇行 (豊田中研) 平成 19 年 5 月 (EC)
D	論文名 著者名 掲載年月	マルコフ連鎖モデルに基づく移動ヒストグラムの動的構築法 石川佳治 (名大), 町田陽二・北川博之 (筑波大) 平成 19 年 2 月 (D)
D	論文名 著者名 掲載年月	隠れマルコフモデルデータベースの高速ゆわ度検索 藤原靖宏・櫻井保志・山室雅司 (NTT) 平成 19 年 2 月 (D)
D	論文名 著者名 掲載年月	人間の視覚特性を考慮した投影画像の光学的補正 マーク アッシュダウン (マサチューセッツ工科大), 佐藤いまり (NII), 岡部孝弘・佐藤洋一 (東大) 平成 19 年 8 月 (D)

((A), (B), (C), (D) : 和文誌, (EA), (EB), (EC), (ED) : 英文誌) 以上 12 編

4.4 喜安善市賞 (第 1 回) (定款 第 6 条ホ, へ)

平成 6 年から本会最高位の論文に対して贈呈していた猪瀬賞は、平成 18 年度の猪瀬賞で終了した。故喜安善市名誉員の御遺族から御寄付があり、喜安善市賞を新設し、猪瀬賞を引き継いだ。

論文名 著者名 掲載年月	Construction Algorithm for Network Error-Correcting Codes Attaining the Singleton Bound 松本隆太郎 (東工大) 平成 19 年 9 月 (EA)
--------------------	--

以上 1 件

4.5 学術奨励賞 (第 70 回) (定款 第 6 条ホ, へ)

[A. 基礎・境界] : 10 名

(五十音順)

受賞者	所属	題名	講演番号	大会別
荒井伸太郎	徳島大	偏りを持たせたカオス系列を使用した DCSK システムの調査	A-2-10	総合
板井 陽俊	愛知県立大	ウェーブレット変換と SVM による歩行足音を用いた個人識別	A-4-38	総合
		テンソル積展開を用いた ELF 帯環境電磁波における背景雑音除去	AS-2-9	ソサイエティ
伊藤 類	東芝	低電源電圧化、広帯域化ベースバンドフィルタの一構成法	A-1-15	総合
奥村 浩之	阪大	振幅時変周期信号のためのスパース信号分解とそのモノラル音声分離への応用	A-4-5	総合
加藤 秀行	埼玉大	STDP 学習により時間変化するニューラルネットワークの複雑ネットワーク構造	A-2-7	総合
		Small-world efficacy of a neural network using the STDP learning rule	A-2-5	ソサイエティ

越田 俊介	東北大	状態空間デジタルフィルタの可制御性・可観測性グラミアンを保存する周波数変換	AS-1-5	総合
高橋 真吾	中大	製造ばらつきによる遷移時間ばらつきに関する一考察	A-3-14	ソサイエティ
外村 喜秀	NTT	スケーラブル符号化のための階層化 LDGM 符号の構成	A-4-27	ソサイエティ
成澤 佳介	埼玉大	動径基底関数ネットワークを用いた画像信号の非線形予測	A-2-16	総合
吉澤 真吾	北大	コグニティブ無線用動的再構成 FFT プロセッサの設計	A-20-8	ソサイエティ

[B. 通信] : 36 名

受賞者	所属	題名	講演番号	大会別
Wayman TAN	早大	End-to-End Available Bandwidth Prediction Using ABSnap and Neural Network	BS-10-2	総合
朝生 雅人	NTT ドコモ	複数のネットワークにおける HLR を利用したマルチナンバー提供方式	B-6-46	総合
太田 陽基	KDDI 研	カメラ付携帯電話を用いた掌紋認証プロトタイプシステムの試作	B-18-3	ソサイエティ
影目 聡	三菱電機	チャープパルス圧縮の距離シフトを用いた速度補正を行うパルス間コヒーレント積分法による測速度性能の改善	B-2-25	ソサイエティ
河井 寛記	NICT	平面波曝露による妊娠 1 ヶ月の女性モデル内の SAR 評価	B-4-18	総合
		平面波曝露による妊娠 4 週の女性モデル内の SAR 評価	B-4-27	ソサイエティ
川村 輝雄	NTT ドコモ	Evolved UTRA 上りリンクにおける直交 Reference Signal 構成	B-5-66	総合
		Evolved UTRA 上りリンクにおける ACK/NACK および CQI 情報を同時送信する場合の最適多重法	B-5-32	ソサイエティ
久保 健	KDDI 研	アドレス割当てと連携した分散型モビリティ手法の提案	B-7-92	ソサイエティ
小郷 直人	NHK	UHF 帯折り返し型矩形ループアンテナの検討	B-1-93	総合
		UHF 帯折り返し型矩形ループアンテナの試作と性能評価	B-1-155	ソサイエティ
小林 基成	NTT ドコモ	フレームサイズを考慮した送信電力制御と木構造クラスタを用いたアドホックルーティング方式の性能評価	B-21-29	総合
小柳 憲治	NEC	FFT Preprocessing を用いた PAPR 低減法における演算量削減	B-5-94	総合
		2 Stage Tone Reservation を用いた PAPR 低減によるスループットの改善	B-5-74	ソサイエティ
崔 珍龍	NEC	コンフィグレーションフリーの宅内 LAN 間接続方式“仮想ターミナル方式”の提案	B-7-96	総合
		パケットロス耐性を強化する Hierarchical Adaptive FEC 方式の提案	B-6-4	ソサイエティ
佐藤 晃一	東芝	無給電素子装荷による端末閉状態の特性改善	B-1-121	総合
姜 聞杰	NTT	An Efficient and Effective Layer Ordering Rule for Spatial Multiplexing Systems	B-5-42	ソサイエティ
杉原 圭祐	福井大	ZigBee を用いたネットワーク化ユビキタス補聴器の検討	B-7-3	ソサイエティ
高橋 正典	古河電工	細径高非線形ファイバを用いた張力印加による分散制御	B-10-36	総合
		CPF と HNLFF からなる小型モジュールによる SC 光帯域拡大	B-10-30	ソサイエティ
千葉 恒彦	KDDI 研	SIP と非 SIP アプリケーションの動的セッション制御方式に関する一検討	B-7-59	ソサイエティ

築島 幸男	NTT	マルチドメインに対応した波長パスバーチャルコンカチネーション技術の実証	B-12-14	ソサイエティ
永井 幸政	三菱電機	60GHz帯ミリ波ブロードバンド通信システム(4)フレーム構成に関する検討	B-5-127	総合
中野 雄介	NTT	コンポーネントの推薦によるシナリオ作成支援手法の評価	B-19-5	総合
		Webサービスによるアバタ実現の検討	B-19-14	ソサイエティ
成川 聖	NTT	光ヘテロダイン受信を用いた光FDM-PONアクセス方式における12.5GHz間隔128波×1.25Gbit/s選択受信特性	B-10-87	総合
		光ヘテロダイン受信を用いたOTDM信号の多重分離方式	B-10-61	ソサイエティ
浜 崇之	NEC	トラヒック短期変動を推定可能な利用可能帯域計測方式	B-7-47	ソサイエティ
東山 潤司	NTTドコモ	近傍界/遠方界変換を用いたリニアアレーアンテナ放射近傍電界強度測定法	B-4-61	総合
		リニアアレーアンテナ放射近傍電界強度の簡易計算値と測定値の比較	B-4-19	ソサイエティ
福元 徳広	KDDI研	タイムスタンプ差の長期観測に基づくジッタバッファ蓄積量補正手法	B-6-61	総合
		FMC環境を考慮したパッシブ方式による区間分割型パケット転送品質通知方式	B-6-53	ソサイエティ
藤田 隆史	NTT	広域ユビキタスネットワークにおけるサイトダイバーシティに関する実験的検討	B-5-136	総合
		広域ユビキタスネットワーク用下り送信ダイバーシティ方式に関するフィールド実験	B-5-128	ソサイエティ
堀口 智哉	東芝	動作合成を用いたSDR開発プラットフォームの適用(2)~FPGA無線通信機の室内実験~	B-17-3	総合
		コグニティブ無線システム向け電波利用状況の測定	B-17-28	ソサイエティ
松井 隆	NTT	空孔アシストファイバの前方ブリルアン散乱の空孔構造依存性	B-13-34	総合
		空孔アシストファイバのGAWBSを用いた擬似分布型温度センサ	B-13-11	ソサイエティ
松川 達哉	NTT	高信頼ネットワーク構成のための不稼働率評価の一検討	B-11-15	総合
		ハザードレイトの推定に基づくネットワーク信頼性評価法の検討	B-7-28	ソサイエティ
丸山 貴史	NTT	適応変調OFDMにおける変調通知情報の削減	B-5-165	総合
		2.4GHz帯使用機器からの2.5GHz帯への干渉電力評価	B-5-115	ソサイエティ
森下 雅透	新潟大	複数給電型パラサイトアレーにおける適応指向性制御の高速化	B-1-184	ソサイエティ
山口 聡	三菱電機	2値終端抵抗装荷超広帯域小型スパイラルアレーアンテナ	B-1-70	総合
		キャパシティ装荷シングルテーパスロットアレーアンテナ	B-1-141	ソサイエティ
山田亜希子	東芝	損失性媒質近傍における無給電素子付ダイポールアンテナの放射特性2	B-1-136	総合
山本 高至	京大	干渉下での協調通信システムの周波数利用効率に関する検討	ABS-1-2	総合
		干渉下での協調通信システムの周波数利用効率に関するシミュレーション評価	B-5-119	ソサイエティ
山本 俊明	ATR	コグニティブ無線における階層型QoS経路制御方式の提案	B-17-15	総合

山本 義典	住友電工	誘導ブリルアン散乱を用いた光ファイバの複屈折率分布測定	B-13-35	総合
渡辺敬志郎	NTT	映像配信サービスを対象としたフリーズ映像品質客観評価法の検討	BS-8-1	総合
蕨野 貴之	KDDI研	オーバレイネットワークにおける高速な位置情報ルーティング方式	B-7-49	総合
		オーバレイネットワークにおける位置情報ルーティング方式の評価	B-7-12	ソサイエティ

〔C. エレクトロニクス〕：14名

受賞者	所属	題名	講演番号	大会別
安部 素実	三菱電機	基板を用いた狭壁面プローブ挿入型導波管電力分配器	C-2-52	ソサイエティ
奥崎 伸彦	電通大	タップ結合型共振器を用いたマイクロストリップ線路デュアルバンドフィルタに関する検討一有極特性と広帯域特性実現に着目して一	CS-2-2	ソサイエティ
上遠野賢一	日本工大	雰囲気変化における接触電圧降下と表面皮膜生成の関係	CS-5-2	総合
川口 俊介	NHK	GaN-HEMT電力増幅器の高調波・IM3位相変化特性の測定	CS-3-7	総合
小林 由佳	東工大	再配線層を用いた生体内情報ワイヤレス通信コイルの検討	C-12-23	総合
		高イメージ抑圧比・周波数可変域拡張回路を用いたCMOS電圧制御発振器	C-12-31	ソサイエティ
堤 恒次	三菱電機	コグニティブ無線用0.4GHz-5.8GHz帯マルチバンドSiGe-MMIC受送信ダイレクトコンバータ	C-2-24	ソサイエティ
那須 悠介	NTT	2.5%Δ導波路を用いた超小型低損失40-chAWG	C-3-86	総合
		半波長板直交配置によるマッハツェンダー干渉計の偏波無依存化	C-3-6	ソサイエティ
半谷 政毅	三菱電機	直並列/並列形保護用高耐電力スイッチの解析	C-2-5	総合
		FET共振器を用いた一括分岐形SPNTスイッチの低損失設計法	C-2-2	ソサイエティ
三木 望	慶大	高周波における開離アークの再点弧現象	C-5-1	総合
村上 絢子	KDDI研	RSOAを用いたWDM-PONにおけるマンチェスタ符号による上り信号の反射耐向上に関する検討	C-4-22	ソサイエティ
本良 瑞樹	東大	58.8/39.2GHzデュアルモードCMOS周波数分周器	C-12-21	総合
森田 恭平	千歳科技大	振動印加による光ファイバ射出光スペクトルパターンの変動に関する一実験	C-5-12	総合
山田 英明	防衛大	平面誘電体境界面によるガウスビーム反射の放物柱関数を用いた近似解析	C-1-25	総合
		平面誘電体境界面によるガウスビーム反射の複素鞍部点法を用いた近似解析	C-1-11	ソサイエティ
山本 泰之	横浜国大	平行平板キャパシタで先端短絡された伝送線路を用いたPIM測定	C-5-6	総合

〔D. 情報・システム〕：8名

受賞者	所属	題名	講演番号	大会別
大澤 淳真	三菱電機	低遅延機能を搭載したMPEG-2HDTVエンコーダの実現	D-11-44	総合
高橋 正樹	NHK技研	飛翔するゴルフボール抽出処理の全自動化	D-12-44	総合
中辻 真	NTT	ブログ記事へのオートタギングを利用したユーザ意識とサービスオンタロジ間のマッピング技術	D-4-4	総合

林 達郎	岐阜大	体幹部単純 X 線 CT 像における骨格の解剖学的構造の自動認識	D-16-8	総合
早瀬 和也	NTT	レイヤ間予測を利用した JSVC 空間拡張レイヤプレフィルタ	D-11-9	総合
松尾 康孝	NHK	デジタルシネマからスーパーハイビジョンへの空間解像度変換	D-11-52	総合
吉井 迪利	奈良先端大	自律分析による XPath の出現頻度抽出とデータ分割	D-4-14	総合
吉野 知伸	KDDI 研	エッジ成分の再現性を考慮した H,264 符号化モード選択方式の一検討	D-11-45	総合

5. 教育活動に関する事項 (定款 第 6 条口, へ)

平成 18 年度に発足した生涯教育委員会, アクレディテーション委員会, CPD 委員会, 小中高生科学教室委員会で構成する教育活動協議会を中心に平成 19 年度も教育活動を展開した。

5.1 先端オープン講座に関する事項

講座に関しては, 平成 19 年度は, 機械振興会館耐震工事のため, 近隣の会場を使用して開講することとなった。受講者へのサービス維持に配慮するとともに, 以下の方策を実施し受講者確保に努めた。①受講者の負担軽減と選択幅を広げ, タイムリーな受講を促進するため, 5 回コースを主体とするコース編成を実施。② CPD (技術者の継続的な教育・能力開発) との連携に向け関連学協会と協賛した周知・宣伝。③大口受講団体の探索と継続的取り組み。④新設コースによる新規受講者の開拓。特に, オブジェクト指向と Java 技術で, PC を利用する演習を, 平成 19 年秋から導入, 実施した。(PC 演習の工夫, 評価を通して, 他のコースへも拡大の予定)。⑤継続的受講を促進するための 2 回目以降受講料の割引。⑥非会員受講者増大に向けたソフトウェア講座専用ホームページの開設及び継続的な新聞雑誌への講座案内記事掲載。また, 支出面で経費節減に努めた。春季講座 (5 月 12 日～7 月 14 日) と秋季講座 (10 月 6 日～12 月 22 日。(ただし 11 月 3 日, 24 日休講)) を土曜日に開講した。開講講座と受講状況は次のとおりであった。

[春季講座]

コース別	受講者数 (): 内団体受講数
A: 情報通信ネットワーク技術	27 名 (2)
Aa: インターネット及び IP ネットワーク技術	20 名
B: システム LSI 設計技術	10 名
C: ユビキタスサービスを実現する応用技術	8 名 (2)
D: 情報通信プロトコル技術	13 名
E: オブジェクト指向と Java 技術	10 名
F: 情報セキュリティ技術	11 名
計	99 名

(ただし, Aa, C, D, E, F コースは全 5 回の講座)

[秋季講座]

コース別	受講者数 (): 内団体受講数
A: 情報通信ネットワーク技術	7 名 (2)
Aa: インターネット及び IP ネットワーク技術	12 名
D2: 情報通信プロトコル応用技術	8 名 (1)
E: オブジェクト指向と Java 技術(PC を利用した演習)	7 名
計	34 名

(注) 秋季は, 少人数受講コースの開講中止により 4 コースのみ開講

5.2 JABEE 活動について

JABEE の学部認定審査はほぼ軌道に乗ってきており, 平成 19 年度は定常的な活動を行った。JABEE 本体への委員の派遣をして JABEE の運営に協力するとともに, 学部プログラムの審査を電気学会, 情報処理学会と連携して実施した。また, 審査員の確保並びに教育機関への最新規程等の周知を目的に, JABEE 審査講習会を 12 月 (東京) と 3 月 (大阪) に開催した。

5.3 技術者の継続的な教育・能力開発

CPD (Continuing Professional Development) 委員会は, 本会の技術者教育への取組みを JABEE 活動と CPD 活動を車の両輪として形成するとの位置付けから設置され, 日本工学会下の PDE (Professional Development of Engineers) 協議会と連携して活動を進めている。本年度は, 電気学会, 情報処理学会と協力して, 「電気電子・情報系 CPD 協議会」を密接に開催し, 共同で協議を進め, 新しい会員サービス実現のため, 昨年検討を進めた技術者に対する Web 版 CPD ポイント登録システムの試行運用を継続することとし, モニター会員の追加募集を積極的に行った。

関連資料: <http://www.ieice.org/jpn/cpd/index.html> に掲載。

5.4 小中高校生を対象とした科学教室

子供の科学離れを防ぐための活動の一環としてこれまで行ってきたが, 平成 19 年度も小中高校生の科学教室を推進し, 会員及び関連企業の協力の下に, 各支部と連携して, 活動範囲等を拡大しながら実施した。

平成 18 年度から設置された, 各支部から選定された委員で構成される小中高生科学教室委員会において, 各支部との情報の共有化を図りながら, 新しい活動についても検討を始めた。

また, 本活動を支えている「子供の科学教室基金」を長期的, 健全に維持するため, 平成 14 年度から開始した募金活動を継続し, 平成 19 年度は 511 名 (個人会員と 2 団体, 維持員 2 社) から約 347 万円の募金協力を得て基金に繰り入れて, 有効に利用した。

平成 19 年度の活動状況について以下に示す。

題目・講師 (敬称略)	開催年月	参加数
科学実験教室: 科学技術館会場 テーマ: アンテナの不思議 講師: 羽石 操・木村雄一・斉藤作義 (埼玉大) 共催支部: 東京	H19.4.2	24 名
工作教室: 新潟県民会館会場 テーマ: ゲルマニウムラジオ工作教室 講師: 下坂 昇・青山英雄・池田弘明 (NTT 東日本) *主催団体: 関東経済産業局/特許庁, 実施団体: 発明協会 企画: 電子情報通信学会 発明の日フェアの行事	H19.4.21	80 名
科学実験教室: 科学技術館会場 テーマ: 音の正体 講師: 大賀寿郎 (芝浦工大) 共催支部: 東京	H19.5.27	16 名
見学会: NHK 放送技術研究所 テーマ: 「見てみよう! 最先端技術の世界」 講師: 谷岡健吉・小森智康・柳澤 斉 (NHK) 共催支部: 東京	H19.6.23	76 名
実習教室: 科学技術館会場 テーマ: 「コンピュータ・プログラミングを自作してみよう!」 講師: 浅見 徹 (東大), 山崎克之 (長岡技科大), 野々山 紫 (NTT-AT) 共催支部: 東京	H19.7.22	20 名
科学教室: 大阪大学基礎工学部会場 テーマ: 大阪大学基礎工学部システム科学科電子システム学コース 一日体験入学 講師: 乾口雅弘 (阪大)	H19.7.27	60 名

見学会：NTT 武蔵野研究開発センタ 講師：池田博昌（東京情報大）、石井六哉（横浜国大） 共催支部：東京	H19.8.1	82名
見学会：大学の研究室訪問（東京工業大学：古井・篠田研究室） 講師：古井貞照・篠田浩一・岩野公司（東工大） 共催支部：東京	H19.8.10	32名
サマースクール：「女子高校生夏の学校～科学・技術者のたまごたちへ」 *本企画は男女共同参画委員会が、講演、展示、ポスターセッションで参加。	H19.8.16 ～8.18	110名
見学会：ソフトバンクテレコム(株) ネットワークオペレーションルーム 講師：上野浩之・寺田浩詔・笠 史郎（ソフトバンクテレコム） 共催支部：東京	H19.8.21	10名
科学教室：明石工業高等専門学校会場 テーマ：コンピュータで3次元アニメーションを作ろう 共催支部：関西	H19.8.21 ～8.22	18名
科学教室：日本女子大学会場 テーマ：不思議がいっぱい科学の世界 司会：今井 元（日本女子大） 講師：濱部 勝・高橋雅江（日本女子大） 共催支部：東京	H19.8.25	61名
科学教室：中央大学会場 テーマ：安心して生活できる社会をめざして 講師：白井 宏（中大） 共催支部：東京	H19.11.3	39名
工作教室：秋田県立大学会場 テーマ：IC ボイスレコーダを作り、音の記録を知ろう 講師：阿部敏士・高山正和・戸花照雄（秋田県立大） 共催支部：東北	H19.12.2	34名
科学教室：日本女子大学会場 テーマ：魅力いっぱい光の世界を体験しよう 講師：小籠香椎子・小川賀代（日本女子大） 共催支部：東京	H20.2.23	37名
講演会：沖縄県立美術館会場 テーマ：高校生に電子情報通信の面白さを語りかける講演「電子情報通信技術は面白い！」 司会：池田博昌（東京情報大） 講師：白川 功（兵庫県立大）、小山正樹（奈良先端大）、名嘉村盛和（琉球大） 共催支部：九州	H20.3.7	27名
科学教室：琉球大総合情報処理センター テーマ：不思議がいっぱい科学の世界 講師：翁長健治（琉球大）、篠田庄司（中大）、池田博昌（東京情報大）、小山正樹（奈良先端大）、石井六哉（横浜国大）、築山修治（中大） 共催支部：九州	H20.3.8	35名
体験教室：名古屋テレビ塔 テーマ：高校生のためのロボット体験教室 講師：辰野恭市・小中英嗣（名城大） 共催支部：東海	H20.3.15	16名
科学教室：高知工科大学会場 テーマ：不思議がいっぱい科学の世界 司会：島村和典（高知工科大） 講師：牧野光則（中大）、福本昌弘（高知工科大） 共催支部：四国	H20.3.29	71名

計19回 848名

6. 関連学術団体との連携に関する事項（定款 第6条チ）

平成19年度は、下記のほかに254件の協賛・後援等を行った。

- ・シンポジウム「ネットワークの匿名性とプライバシー保護」（平成19年9月21日 情報セキュリティ大学院大学主催）
- ・総合科学技術会議 科学技術連携施策群 情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発連携群の活動～情報爆発時代に果たす日本の役割と連携強化～シンポジウム
(平成20年1月30日 内閣府主催)

国会「ネットワーク運用ガイドライン検討ワーキンググループ」と国立情報学研究所「国立大学法人等における情報セキュリティポリシー策定作業部会」が合同で高等教育機関

に適した情報セキュリティ規程群の策定の活動に対して、「情報セキュリティの日功労者表彰」が授与された。

受賞式は平成20年2月4日(月) 総理大臣官邸で行われ、内閣官房長官から表彰状が授与された。

7. 専門講習会に関する事項（定款 第6条ロ）

支部主催、本部支援の専門講習会を次のとおり開催した。

支部名	題 目	開催年月日	参加者数	場 所
北海道	生活に溶け込むコンピューティング	H19.11.2 11.16	126	はこだて未来大学
東北	画像処理プロセッサの現状と展望	H20.2.22	60	東北大学
信越	組込みシステムに関する講習会	H19.7.24, 25	18	塩尻インキュベーションプラザ
北陸	FPGA 入門	H20.3.10, 11	19	福井工業大学
東海	高機能アレーアンテナとその応用技術	H20.3.10	31	ローズコートホテル
関西	「外脳との相互作用」～環境や外部知識と相互作用し、外脳を有効利用する先端技術	H19.10.19	26	中央電気倶楽部
四国	Linux のインストールとファイルサーバの構築	H20.2.16	10	詫間電波工業高等専門学校
九州	情報セキュリティ最前線	H19.10.19	57	佐賀大学

計8回

8. 学生事業に関する事項（定款 第6条ヘ、チ）

8.1 会誌「学生会報告」欄の掲載記事

各支部学生会の活動状況等を会誌「学生会報告」欄に掲載した。

- ・平成19年7月号：平成18年度各支部学生会事業報告
- ・平成20年2月号：各支部・学生ランチ学生員の感想

8.2 学生員の入会勧誘

各支部に入会勧誘のためにPR用資料として、「ポスター」と宣伝を兼ねた「学生用入会案内」をそれぞれ配布した。

各支部において学生員増強基金を利用した学生員勧誘、学生ランチ設置校募集が行われた。また、継続検討事項として、学生員増強基金の有効利用、基金利用基準について検討を行った。

8.3 学生へ情報小冊子の配布

学生への情報小冊子「学生の皆さんへ」を10,500部作成し、年2回学生員及び各支部へ配布した。特に卒業（修了）予定の学生に対して、正員に昇格する際の会費減額サービスを早期に連絡して会員手続き依頼をするともに、会費未納者への支払請求を1月から毎月行った。

8.4 学生ランチについて

平成19年度は、会津大、東北大、慶大、千葉大、千葉工大、都立産業技術高専、東工大、日本女子大、豊橋技科大、名大、愛媛大、香川大、徳島大、琉球大の14校で学生ランチ活動を行った。

また、ホームページ「学生のひろば」に学生ランチの活動紹介記事及び設置申込みから報告書作成までの資料、流れを掲載し、学生ランチ設置校の増大を図った。

支部活動として実施するため、設置校の申請を各支部を通じて受け付けることとした。また、各支部学生ランチの活動については、学生会連絡会に報告し、各支部学生が自主的

に参加し、運営していける環境作りを検討した。

9. 男女共同参画に関する事項（定款 第6条ハ、チ）

電子情報通信工学分野において男女が共に、研究・開発・教育等の仕事や勉強、及び学会活動に、十分な力を発揮して快適に参画するための活動を推進した。

平成19年度の活動は女子高校生夏の学校～科学・技術者のたまごたちへ～の企画に参加した。IEEE Japan WIE (Women In Engineering) が主催する講演会の協賛、「わいず(WISE)サロン」(愛媛大学理工系学生のためのキャリアアップ支援講座)の共催をした。本会会誌において「男女共同参画のページ」を創設した。また、日本女子大学において学生に向けてシンポジウムを企画・実施した。平成20年3月には、女子高校生ジュニア科学塾2008 in 関西で音声認識の実験とロボットの展示を行った。

平成18年3月の総合大会より総合大会開催時に開設した託児施設を、平成20年3月の総合大会においても開設した。

10. 検討部会に関する事項（定款 第6条ハ、チ）

10.1 他学会との連携について

「電気・情報関連学会連絡協議会」(本会、電気学会、照明学会、映像情報メディア学会、情報処理学会)において各学会が直面している問題(電子出版など)について話し合いを行っている。

日本学術会議との連携を図るため、日本学術会議と電気・情報関連5学会との会合を平成20年1月25日に実施し、意見交換を行い、今後も1月に継続実施することとした。

10.2 卓越技術データベースの作成について

電気・情報関連5学会連携による平成15年度科学研究費補助金データベース作成活動を実施した。1980年代を中心に世界のトップレベルに達した我が国の卓越技術の研究開発の歩みをデジタルアーカイブとして蓄積する。5年間で3,000件(うち、本会分は1,200件)の卓越した日本の技術のデータを収集している。

11. 会員に関する事項（定款 第3章）

11.1 名誉員の推薦

- 伊澤 達夫(東工大)
- 伊藤 清男(日立)
- 篠田 庄司(中大)
- 島田 禎晉(矢崎総業)
- 村谷 拓郎(元 KDDI 研)

を定款第7条イ項により名誉員に推薦した。

11.2 フェロー称号の贈呈

〔基礎・境界ソサイエティ：6名〕

贈呈者氏名	貢献内容
小野寺秀俊	集積回路の物理設計技術に関する先駆的研究
櫛引 淳一	超音波マイクロスペクトロスコープと材料評価法の開発
築山 修治	グラフ理論を用いたコンピュータ援用設計手法の研究
中島 康治	ソリトン、ニューラルネットワーク等、非線形問題の研究
長島 知正	カオスの実用的特徴付け手法の開発とその応用に関する研究
牧野 昭二	適応フィルタの研究および音響信号処理技術の研究開発

〔通信ソサイエティ：28名〕

贈呈者氏名	貢献内容
安達 文幸	W-CDMA 移動通信システムの研究開発に対する貢献
市川 晴久	情報流通プラットフォーム技術の研究
伊藤 公一	医療用アンテナの研究と実用化への貢献
井原 俊夫	ミリ波帯電波の伝搬および利用システムに関する先駆的研究
岡田 忠信	B-ISDN 標準化活動とソサイエティ活性化活動に対する貢献
上 芳夫	環境電磁工学における伝送線路論の先駆的研究
唐沢 好男	無線通信に関する電波伝搬とその関連研究への貢献
雁部 洋久	通信用デジタル信号処理プロセッサの先導的研究と実用化
川合 誠	マルチビーム衛星通信方式の研究開発への貢献
川島幸之助	通信トラヒック工学の研究と応用に対する貢献
小塚 洋司	電磁波の生体効果と電磁環境保全技術開発に関する貢献
小山田弥平	光ファイバ伝送路試験技術の研究とそのシステム開発の貢献
佐々木 豊	偏波保持光ファイバの先駆的な研究及びその実用化の貢献
笹瀬 巖	無線通信と通信ネットワークにおける伝送技術の研究に対する貢献
三瓶 政一	移動通信における多値・適応変調技術に関する先駆的研究
塩本 公平	ラベルスイッチネットワークアーキテクチャの研究開発の貢献
高橋 謙三	情報通信に関する日本とアジアを繋ぐ高等教育への貢献
谷口 智彦	音声符号化および DSP の研究開発・実用化に対する貢献
坪井 利憲	高速広帯域デジタルネットワークの研究開発に対する貢献
長野 勇	プラズマ中の電波伝搬の研究及び電波技術による地域産業への貢献
牛 志升 (NiuZhisheng)	Contributions to Network Engineering and IEICE International Activities (ネットワーク工学研究ならびに学会活動の国際化への貢献)
花澤 隆	ネットワークインテリジェンスの研究開発
前田 洋一	光アクセス網の研究実用化と国際標準化および学会活動への貢献
水池 健	衛星通信における運用計画最適化技術の研究開発と実用化への貢献
村上 篤道	デジタル映像符号化・伝送・蓄積技術の開発への貢献
盛岡 敏夫	通信ソサイエティ英文論文誌のグローバル化に対する貢献
山口 芳雄	偏波レーダへの貢献
山田 吉英	無線通信用アンテナと自動車の電磁界解析技術の開発に対する貢献

〔エレクトロニクスソサイエティ：5名〕

贈呈者氏名	貢献内容
荒木 純道	電磁波回路理論、電磁波解析理論および無線機構成への貢献
上田 大助	情報・通信用半導体デバイスの研究開発と工業化への貢献
佐藤 進	液晶ディスプレイに関わる科学技術及び液晶の応用への貢献
谷口 正成	機構デバイスの信頼性評価へのホログラフィ技術の応用
吉國 裕三	通信用半導体レーザと光集積デバイスの先駆的研究・実用化の貢献

〔情報・システムソサイエティ：10名〕

贈呈者氏名	貢献内容
安達 淳	学術情報の電子化および電子図書館の研究開発への貢献
石川 眞澄	神経回路モデルからの知識抽出に関する先駆的研究と教育への貢献
大西 昇	視聴覚情報処理のモデリングと工学的実現に関する研究・教育への貢献
服部 文夫	エージェント通信とその応用に関する研究
広瀬 啓吉	音声情報処理技術、特に音声合成の高度化に対する業績と国際貢献
牧野 正三	音声認識・理解システムの高精度化に対する貢献

松本 修一	国際テレビジョン中継用デジタル高能率符号化技術の研究開発に対する貢献
武川 直樹	画像メディア処理に関する先駆的研究
村瀬 洋	画像認識および映像探索に関する先駆的研究
横田 治夫	データベースシステムとディペンダブルシステムに関する先駆的研究

11.3 会員の現況

会員数の減少を意識して平成19年度から、(1)会費の前納制に移行、(2)銀行・郵便局での自動引落しを実施した。特に自動引落しは会費の5%割引も合わせて実施した。これらの施策により平成19年度末の会員数は下表に示すように前年度と比較してプラスに転じた。

会員数の減少に対する継続的な取組みとして、(1)各学生員に対して学生員から正員への移行時の2年間会費減額サービスの周知と「正員証」の送付、(2)支払いを忘れて滞納している会員に対して継続的な会費請求を実施、(3)学生員の意識向上を意識して学生ブランチ校の増大施策、などを実施した。

(1) 会員数は次のとおりである。

会員種別	名誉員	正員	学生員	准員	特殊員	維持員	合計
平成18年度末会員数 ()内はフェロー会員数	84 (20)	27,744 (547)	5,290	141	364	234	33,857 (567)
平成19年度末会員数 ()内はフェロー会員数	83 (23)	27,884 (583)	5,420	128 (1)	375	228	34,118 (607)
前年度末との差	-1 (3)	140 (36)	130	-13 (1)	11	-6	261 (40)

(注) 名誉員の野村民也先生は平成19年5月31日に、関本忠弘先生は11月11日に、植之原道行先生は12月19日に、染谷 勲先生は12月31日に、永井 淳先生は平成20年2月16日に逝去された。

(2) 各支部における会員数は次のとおりである。

()内はフェロー会員数

支部/ 会員種別	名誉員	正員	学生員	准員	特殊員	維持員	合計
北海道	1 (1)	466 (10)	217	0	5	4	693 (11)
東北	8	917 (41)	211	0	17	5	1,158 (41)
東京	55 (12)	16,355 (362)	1,849	1	220	146	18,626 (374)
信越	0	465 (7)	132	0	12	10	619 (7)
東海	4 (3)	1,764 (36)	423	0	30	21	2,242 (39)
北陸	0	475 (6)	111	0	8	1	595 (6)
関西	10 (5)	3,566 (76)	795	1	49	31	4,452 (81)
中国	1 (1)	829 (11)	278	0	14	3	1,125 (12)
四国	1 (1)	402 (5)	219	0	7	2	631 (6)
九州	0	1,182 (22)	492	1	12	5	1,692 (22)

海外在住	3	154 (4)	6	0	1	0	164 (4)
Overseas	0	1,309 (3)	687	125 (1)	0	0	2,121 (4)
合計	83 (23)	27,884 (583)	5,420	128 (1)	375	228	34,118 (607)

II. ソサイエティ事業

ソサイエティ制開始13年目にあたる平成19年度は、各ソサイエティにおいても特色のある企画等を実施し、研究調査活動も順調に推移した。また、各ソサイエティの連携を図るためにソサイエティ連絡会を4回開催した。

◎ 基礎・境界ソサイエティ

(1) 総論

基礎・境界ソサイエティは、本会関連の研究分野のうちでも境界領域や基礎領域及び新しい領域での研究活動を支援し、推進するという重要な役割を担っている。本ソサイエティは他ソサイエティと同列に存在しているものの、その理念、使命は特別である。本ソサイエティの運営にあたっては、その存在意義を常に深く意識し、独自の価値を持ったソサイエティ作りを目指した活動を行うべきと考えている。このために、境界領域や新領域など移り変わっていくものと基礎領域など不変なものを確かな目で見極め、それぞれに適した活性化の一層の推進を進めている。

平成19年度はソサイエティの独立採算化の試行を開始した。この試行を通じて、会員の新規獲得を中心とする財政基盤の健全化策の明確化を図り、あわせてソサイエティ活性化のための活性化ワーキンググループ（以下、活性化WG）の一層の充実を図った。上記の目標を達成するために、活性化WGにおける議論や会員からの意見を反映させつつ、活動の基本となる財政基盤の健全化、新しいソサイエティ機関誌の発刊、研究専門委員会の研究現場の感性をくみ上げる環境作りの推進、などを実行した。このような環境の下で、ソサイエティ活性化事業費も有効に利用し、新分野醸成と基礎領域の次世代への発展継承を図っている。

(2) ソサイエティの独立採算化の試行

独立採算化の目的は、財政面及び事業計画・実施面でソサイエティ横並びではなくソサイエティ独自の施策を実現可能とすることで、より一層の会員サービスの向上を目指すことにある。あわせて、論文誌、研究会等が本会の貴重な財産であることにかんがみ、論文編集委員会・研究会等の活動のインセンティブをより高めることも目的となる。財政面に関しては、正員数が減少し、会費の少ない学生員や海外会員の割合が増大しつつある中、基礎・境界ソサイエティに関しては、幸い財政基盤の悪化は見られない。しかし、今後の正員数の減少に伴い、収支が赤字になることも予想される。これらの状況を踏まえ、基礎・境界ソサイエティは理事会や他のソサイエティと協調しつつ、独立採算化を見据えた上でソサイエティとして独自に施策を決定し、積極的に展開を図っていくことを基本方針とした。基礎・境界ソサイエティにおける意思決定は運営委員会で行うものとするが、できるだけ実効的な組織である活性化WG、論文編集委員会・研究専門委員会等他の各種委員会での創意工夫の余地が大きくなるよう権限の委譲を図っている。ソサイエティの運営体制の見直しに伴うソサイエティ規程の追加・修正、財政の健全化、担務責任

の明確化、論文誌発行事業の財政健全化、研究専門委員会の活性化を可能とする具体的施策などを実行した。

(3) 財政の健全化

ソサイエティの持続的発展を実現するためには、「会員に対するサービス」という視点が重要である。基礎・境界ソサイエティでは、財政基盤の確立、及び新規サービス事業の検討・実施を行った。チュートリアルや教育事業などを含めて、基礎・境界ソサイエティが会員に提供するサービスの質的向上を図った。具体的な財政基盤の確立について、会計システムの透明化、新規会員獲得のための活性化事業に関して以下に述べる。

(3-1) 会計報告の一層の充実：平成17年度から実施している研究専門委員会における収支報告及び活動報告に関して、平成19年度には研究専門委員会ごとの予算提案も含め、より一層の会計の透明化、財政の健全化を図った。これらによりソサイエティ全体の財政の健全化を図った。

(3-2) ソサイエティ活性化事業：平成17年度末より実施されているソサイエティ活性化事業は新規会員の獲得及び会員の確保をねらいとした、基礎・境界独自のソサイエティ活性化策である。平成17年度の第1回の募集からこれまでに6件の活性化事業が採択され、ソサイエティの活性化に貢献している。今後も本制度を継続し、ソサイエティの更なる活性化につなげていく。

(4) 研究専門委員会活動の活性化

基礎・境界ソサイエティでは、これまでに、既存の研究専門委員会の活動の更なる促進、学術研究集会（国際シンポジウム主催母体）の組織化、第二種・第三種研究会の活動の支援、新しい研究分野の開拓等々に努力してきた。本年度も一層この方向における活性化を推進することを事業の一つとした。活性化WGにおける議論を踏まえ、より活発に活動している研究専門委員会等を支援するために、平成17年度より研究専門委員会等へ技報売上に応じて活動費を配分しているが、平成19年度は、活動報告や収支報告により、活動状況、活動費の支出状況の一層の透明性を高めるとともに、その自由度を高めることで、研究専門委員会等の活性化の推進を図った。また、活性化のための評価システムの構築と、それによる研究専門委員会等の再構成に向けた取組みを継続していく。

(5) ソサイエティ活動の活性化

基礎・境界ソサイエティの存在を学会の内外にアピールするためには、本ソサイエティの活動にふさわしい各種講演会のより一層の充実が必要である。大会における魅力的な講演会特別企画の立案や、出前講演会と銘打った講師派遣型の講演会など各種の講演会等の企画立案に尽力した。また、応募形式で獲得できる基礎・境界ソサイエティ活性化事業費の有効活用とともに、平成20年度ソサイエティ独立採算化の本格開始に向けて、ソサイエティ独自の国際会議の支援や新分野の育成のための予算措置を伴った活動がより自由に行えるような仕組みの構築を推進した。

(6) 論文誌の魅力の向上

論文誌の魅力の向上による若手会員・海外会員の獲得は学会の基本であり、そのためには内容の充実、掲載までの期間の短縮が重要である。掲載までの期間の短縮への取組みを継続するとともに、魅力的な特集号企画の検討、実施を行った。また、英文論文誌については、平成14年度より導入している英文クオリティチェックとともに、学会Webページに掲載されている英文論文作成に慣れていない会員へのサポートのための英文論文書き方テキストの宣伝活動により、英文の

質的向上を引き続き推進している。

(7) 国際化の推進

国際化の促進、特にアジアをターゲットとした活動は重要であり、海外会員への支援のための英文ホームページコンテンツの更なる充実、国際会議へのブース出展、国際会議における英文論文誌CD-ROM無料配布や若手研究者への旅費補助、平成18年度に立ち上げた日本在住の留学生をターゲットとしたホームページの充実化や留学生を対象とする企画などにより、外国人に対する本ソサイエティの認知度を高めることで、英文論文誌拡販、留学生会員や海外会員の増加を図った。

(8) ソサイエティ内情報管理システムの有効利用

ソサイエティの効率的な運営を目指した情報管理システムの構築に向けた取組みが平成16年度よりスタートし、平成17年度にはシステムの利用が始まった。平成19年度には、平成18年度のシステム見直し項目を踏まえ、システムのより一層の充実とともにその有効利用によるより効率的な情報管理を図った。従来から委員の交代などによる事業の不継続が指摘されてきたが、この情報管理システムを有効利用することでソサイエティ事業の継続性強化が達成され、ひいてはそれがソサイエティ活性化につながるものと期待される。

◎ 通信ソサイエティ

通信ソサイエティでは、昨年度より独立採算化の本格実施を行い、会計処理の透明化と財務基盤の把握に努め、機動的な活動が可能な環境作りを進めるとともに、ソサイエティ編集会議、研専運営会議を中心に活性化のための独自施策の展開を進めてきた。

(1) 財務管理

独立採算化に伴い、毎月の収支状況の取りまとめと四半期ごとの収支報告を行い、ソサイエティの財務基盤の把握に努めてきた。あわせて、論文誌オンライン化の影響や新規活動費の運用状況などを見極めながら柔軟な財務運用を行い、ソサイエティ活動の基盤である研究専門委員会活動や論文誌・マガジン編集活動、更に会員向け新サービス提供など会員サービス活性化に向けた施策が実施できる環境を整えた。

また、本部に財務検討タスクフォースが設置され、本部/ソサイエティ間の会費等配分などの議論が開始されたことに伴い、今後ソサイエティでも連携して議論を開始した。

(2) 通信ソサイエティマガジン

通信ソサイエティ会員に対する更なるサービス向上及び通信ソサイエティのプレゼンス向上を目的とした新施策の一つとして、平成19年6月より通信ソサイエティ和文マガジンを創刊し、年4回の発刊を開始した。創刊号はソサイエティ内に限定せず会誌と併せて全会員に配布した。ソサイエティ会員減少の歯止めとなるかは今後の推移を見る必要があるが、専門分野におけるトレンド紹介や体系的な技術解説など技術的オリジナリティを追求する論文誌とは別の形の技術誌として好評を得ている。

(3) 会員アンケートによるサービス評価

昨年度、通信ソサイエティ会員の減少原因の分析や会員が何に期待しているか、などの情報を入手することを目的にサービス評価委員会にて会員サービス評価方法の検討を進めてきたが、本年度Web上での会員サービスアンケートを実施し、約1,600人からの回答を得た。分析したアンケート結果は通信ソサイエティホームページ、通信ソサイエティ和文マガジン等にて公開するとともに、今後の魅力ある通信ソサ

イエティ活動の施策立案に供する。

(4) 研究専門委員会

研究会活動の活性化を目的とし、研究専門委員会の活動状況を数値化した評価や研究専門委員会の設置・廃止基準のガイドライン化を行った。

また、昨年度に設けた研専運営会議活性化資金による各研究専門委員会活動の活性化を進めるとともに、研究専門委員会横通しの情報交流のための幹事連絡会を開催するなど活性化のための活動を実施してきた。大会活性化施策についても、各研究専門委員会にて検討を進めている。

(5) 技報電子化

従来研専運営会議において研究会投稿システムの確立やデジタルコンテンツ、技報のアーカイブ化の検討を進めてきたが、本年度はソサイエティ財務も交えて技報電子化の検討に着手した。研究会活動活性化の手段ととらえ、あり方、方法論を議論するとともに、技報はソサイエティの重要な財務基盤であることを考慮し、財務分析も並行して進めている。

(6) 通信ソサイエティホームページと新サービス

会員サービスの活性化施策の一つとして、昨年度末より会員相互のコミュニティの形成を目的としたコミュニティサービスの本格運用を開始。加えて、会員の持つ技術領域検索のための研究室 HP リンクサービスの運用を開始した。

これらソサイエティホームページを活用した新規会員サービスを拡充するとともに、ホームページデザインの更新を行い、見やすさ、利便性の向上を図った。

(7) 通信ソサイエティ論文賞

通信ソサイエティ論文賞として2006年4月から2007年3月発行の和英論文誌に掲載された論文の中から、優秀論文賞3編、チュートリアル論文賞1編、Best Paper Award 2編、Best Letter Award 1編、Best Tutorial Award 3編を選定し、ソサイエティ大会総会で表彰式を行った。

(8) 国際関連

シスターソサイエティとの連携を引き続き実施した。また、IEEE ComSoc、KICS 会長が通信ソサイエティを来訪され意見交換を行うなど交流を深めている。また、昨年度に引き続き、通ソメーリングリスト、及びIEEE ComSocの双方のメーリングリストを使った会員サービス(CFPや論文誌の目次の配信)、Global News Letterの発行を継続して実施した。Global News Letterについては、内容に関するアンケートを実施。今後の海外会員へのサービス向上施策に反映する。

◎ エレクトロニクスソサイエティ

2007(平成19)年度は、エレクトロニクスソサイエティ(エレソ)の独立採算化本格運営の初年度であった。独立採算運営における効率的なソサイエティ運営を目的に、全体会議である運営委員会(委員数56名)を年1回開催として、少人数(18名)により構成される執行委員会を年5回開催して、通常のエレソ事業活動の状況把握及び意思決定の機動性向上を図った。更に、執行委員会の傘下に設置した「企画会議」、「編集出版会議」、「研究技術会議」の3会議体制を中心に、ソサイエティ活性化に向けて新施策の検討及び具体化を進めてきた。ソサイエティの主な活動を、三つの会議ごとに以下に示す。

1. 企画会議

(1) 予算：エレソ独立採算に伴うエレソ会計収支の把握と管理・分析を定期的に行い、効率的な予算運営を進めた。特に、エレソ独自の施策を立案実施するために、

ソサイエティが独自に使用することができる「その他事業費」枠の充実を図り、学生奨励賞の創設、会員サービスに向けた技術コンテンツの作成、技報の電子アーカイブ化の試行検討などの新企画を組み込んだ。

(2) 顕彰：従来のエレクトロニクスソサイエティ賞に加え、新たに学生会員活性化を目的としたエレクトロニクスソサイエティ学生奨励賞を創設し、ソサイエティ大会から実施して6名を表彰した。今後、大会ごとに学生奨励賞の選定を進め、エレソ独自表彰制度として定着を図る。

(3) 広報：会員サービスに向けたビデオコンテンツの作成を検討し、総合大会よりソサイエティプレナリーセッション特別講演のアーカイブ配信試行を実施した。

2. 編集出版会議

(1) エレソ活性化予算として、掲載料の各種減額・免除、英文品質チェック、ELEX 宣伝パンフレットの作成などを提案し、実行に移している。

(2) IEICE Electronics Express (ELEX) については、ソサイエティの速報版として位置付けて英文誌レターとのすみ分けを明確にし、発行までの早さ・質・オープンアクセスを強みとして国際的認知度向上を推進した。一方、ソサイエティ間の協力体制の整備のために、ELEX 編集委員会に通信ソサイエティからのリエゾン委員を追加した。また、スコープの変更・拡大の検討を開始した。

3. 研究技術会議

(1) 研究専門委員会：エレソの根幹をなす13の研究専門委員会と14の時限研究専門委員会が活発な研究会活動を行った。

(2) 国際会議：主催・共催4件及び技術共催・協賛案件8件を開催した(2007年6月～2008年5月)。また、国際委員会の国際会議処理要領見直し議論を受けて「エレクトロニクスソサイエティ国際会議処理要領の改正」及び「国際会議開催申請手順の整備」を実施した。

(3) 2007(平成19)年ソサイエティ大会(鳥取大)では一般講演352件に加えて、シンポジウム講演55件(通ソとエレソ共催企画18件含む)、ソサイエティ特別企画1セッション、シンポジウム1セッションを実施した。ソサイエティ特別企画「応用の幅を広げるレーザ技術」では活性化施策として海外からの講師を招へいする等の講演内容の充実を図り、多くの聴衆を集めた。

(4) 研究会活性化基金を運用して学生を中心としたマイクロ波学生研究発表会(2月、MW研)を実施した。14件の学生発表、2件の一般発表、1件の特別講演が行われ、熱心な議論が行われた。

2008(平成20)年度は、独立採算運営実施の初年度結果を振り返り運営体制を見直して、ソサイエティ活性化を押し進めるとともに独立採算運営を軌道に乗せる年度である。3会議体制を維持しつつ様々な新施策の実行を行い、その効果と課題を常にチェックしながら「理想のソサイエティ」活動に向けて迅速かつ的確に対応するよう取り組んでゆきたい。

◎ 情報・システムソサイエティ

情報・システムソサイエティは、他ソサイエティと同様に論文誌を電子ジャーナル化するとともに、一層積極的な研究

会活動を行い、ソサイエティ独立採算への試行段階に入った。

名城大学天白キャンパスで開催された総合大会(3月下旬)では、ソサイエティ企画6件、シンポジウム1件及び学生ポスターセッションを企画するなど、ソサイエティ活動の可視化に努めた。特にポスターセッションでは情報・システム分野以外の発表も積極的に受け入れた。また、大会の懇親会(3/21)において情報・システムソサイエティの学術奨励賞(8名)の授賞式が行われた。

ISSのソサイエティ大会と情報処理学会(IPSJ)の秋の全国大会を統合したFIT(情報科学技術フォーラム)は、平成19年9月5日から3日間、中京大学豊田キャンパスで開催された。参加者は講演者853名、一般聴講者666名、その他イベント講演者、招待者等の総参加者数1,806名であった(昨年福岡で開催されたFIT2006での参加者は1,608名であった)。FIT運営面においては、2、3日目に台風9号のため新幹線が止まるなど交通に大きな影響が出たものの、現地実行委員会など運営側の迅速な対応により大きな混乱はなかった。また、収支についても黒字となり、全体として成功であったといえる。また、メイン会場での村井純先生の特別講演(人と社会、そしてコンピュータとネットワーク、9/6)には、会場が満員となる390名の参加者があり、その他多くのパネル討論や各イベント会場も多くの参加者であふれ、魅力ある企画が多く見られた。次回(FIT2008)は、会場を慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスに移して行う予定(平成20年9月2日～4日)である。また、例年通り、船井業績賞、船井ベストペーパー賞、FIT論文賞、FITヤングリサーチャー賞を選定・表彰した。

主な活動は以下のとおりである。

(1) 授賞に関する活動

ISSでは、ソサイエティの独立性、活性化を図る施策として、サーベイ論文、先見論文、連作論文を選定対象とするソサイエティ論文賞を設立している。また、ソサイエティの活動について顕著な功績があった人々、例えば多数の論文査読を行った査読委員等を対象とした活動功労賞も設定している。これら論文賞9名、功労賞11名を選定し、東京で授賞式を行った(平成19年11月29日)。

(2) 第8回フェロー称号贈呈式及び第9回フェロー候補者推薦

平成19年度フェロー称号贈呈式を上記授賞式と同じ日(11/29)に東京で行い、富永会長から10名の方々にフェロー称号を贈呈した。第9回フェローについては、推薦を寄せられた中からISSフェロー推薦委員会において審議を開始した。

(3) 財務基盤の改善検討

ISSソサイエティ運営の独立化を視野に入れてISS財務基盤を強化すべく、論文誌関連の経費削減、総合大会・FITの収支構造、技術研究報告予約価等について検討・試行を行った。平成20年度からは本格的に独立採算に移行する。

(4) KIISEとの継続提携を更新した。

◎ ヒューマンコミュニケーショングループ

平成19年度は、ヒューマンコミュニケーション基礎研究会(HCS)、ヒューマン情報処理研究会(HIP)、マルチメディア・仮想環境基礎研究会(MVE)、福祉情報工学会(WIT)の四つの第一種研究会、Webインテリジェンスとインタラクティブ研究会(WI2)、脳情報通信研究会(BICT)、身体性情報学研究会(IEB)の三つの第二種研究会、及び、ヴァー

バル・ノンヴァーバル・コミュニケーション研究会(VNV)、料理メディア研究会(CM)、人間とICT倫理研究会(EHI)の三つの第三種研究会による体制を確立し、活発な活動を展開した。特に、IEBとEHIは、今年度新設された研究会である。

前年度に引き続き、次の取組みを行った。HCS、HIP、MVE、WITは各々6回の研究会を開催した。特に情報科学技術フォーラム(FIT2007)においてMVEとCWが共同で企画セッション「人の居場所を探る—情報過多のネット時代における個倍化現象—」を行い、WITも「大学の理系学部等における障害のある学生の支援」を開催し、大勢の参加者を集めた。WI2は3回の研究会を開催し、DBWeb2007を協賛する活動を行った。BICTは4回のワークショップを開催するとともに、設立間もないIEBは「身体性情報学を考える」など2回のシンポジウムを開催した。VNVは4回の研究会とWebを使った議論のアーカイブに引き続き取り組むとともに、スカイプでの研究会参加の試みを開始した。新設のEHIは、人間と自然環境との調和を原点とする生命倫理を視座に、人間を直接取り扱うICT倫理を議論する活動を開始した。

平成19年度ヒューマンコミュニケーション(HC)賞の選定と表彰を行った。本賞は、第一種研究会の発表から、50件に1件を目安に、各研究会で組織したHC賞審査委員会において選考した。本年度はHCGホームページに記載されたように、計7件の発表についてHC賞を授与することにした。

春の総合大会に併せて3月22日(土)、23日(日)に北九州学術研究都市産学連携センターにてHCGシンポジウムを開催した。HCG傘下の合計七つの研究会(第2種研究会も含む)が参加し、総発表件数は約100件に達した。また、シンポジウムの特別企画として、講演会「芸術とヒューマンコミュニケーション」(講演者:藤幡正樹:東京芸術大、三浦佳世:九大)を開催し、多くの聴衆を集めた。

HCGニューズレターを19年9月と20年3月の2回、発行した。また英文論文誌(ED)において、「ヒューマンコミュニケーションⅢ」の企画を行い、2008年6月に発行を予定している。

平成19年度の重点的な取組みとして、(1)HCGの活動が一層見えるように、HC賞並びにFITやHCGシンポジウムをはじめとした特別企画への取組みを積極的に行い、芸術とヒューマンコミュニケーションの接点を求める特別講演会も行われた、(2)他学会や他コミュニティとの横断的な連携をこれまで以上に進めるため、新規分野の開拓に努め、その結果、IEBとEHIの研究会が新たに増えた、(3)HCGが精力的に取り組んできた情報保障の検討をHI学会との連携でも行うことになった、(4)英文論文誌での特集企画への取組みを積極的に行った、(5)HCGの将来像に関して基礎資料を集めるため登録会員にアンケート調査を実施した、(6)HCGの独立採算化を目標に各種プランの計画や実施、シミュレーションに取り組んだことなどが挙げられる。

1. 大会に関する事項(定款 第6条口)

1.1 総合大会

下記の期日・会場において4ソサイエティが合同して開催した。

期日 平成19年3月20日(火)～23日(金)

会場 名城大学天白キャンパス(名古屋市)

参加者 5,166名

懇親会 名城大学 共通講義棟北 地下1階「名城食堂」

参加者 210 名

(a) 企画セッション数

企画種別	大会委員会	ソサイエティ				合計 (実数)
		基礎・境界	通信	エレクトロニクス	情報・システム	
大会委員会 セッション	6	—	—	—	—	6
ソサイエティ 特別企画 セッション	—	2*	1	2*	2	6
パネル セッション	—	2*	7	2*	1	11
チュートリアル セッション	—	1	5	4	1	11
シンポジウム セッション	—	1	—	—	—	1
合計 (共催を含む)	6	6	13	8	4	35

* 基礎・境界とエレクトロニクスの共催企画 1 件を含む。

(b) 公募セッション講演数

	ソサイエティ				合計 (実数)
	基礎・境界	通信	エレクトロニクス	情報・システム	
一般セッション	357	1,270	505	527	2,659
シンポジウムセッション	40	101	63	43	247
合計	397	1,371	568	570	2,906

1.2 ソサイエティ大会

下記の期日・会場において基礎・境界、通信、エレクトロニクスの3ソサイエティが合同して開催した。

期日 平成19年9月10日(月)～14日(金)【5日間】

会場 鳥取大学鳥取キャンパス(鳥取市)

参加者 2,765名

懇親会 ホテルニューオータニ鳥取 2階鳳凰の間

参加者 175名

(a) 企画セッション数

企画種別	大会委員会	ソサイエティ			合計 (実数)
		基礎・境界	通信	エレクトロニクス	
大会委員会 セッション	1	—	—	—	1
ソサイエティ 特別企画 セッション	—	2	—	1	3
パネル セッション	—	2	4	—	6
チュートリアル セッション	—	3	3	1	7
合計	1	7	7	2	17

(b) 公募セッション講演数

	ソサイエティ			合計 (実数)
	基礎・境界	通信	エレクトロニクス	
一般セッション	237	947	352	1,536
シンポジウムセッション	31	107*	55*	175
合計 (共催を含む)	268	1,054	407	1,711

* 通信とエレクトロニクスの共催企画 18 件を含む。

1.3 FIT2007 (第6回情報科学技術フォーラム)

下記の期日・会場において情報・システムソサイエティ、ヒューマンコミュニケーショングループ及び情報処理学会が合同で開催した。

期日 平成19年9月5日(水)～7日(金)

会場 中京大学豊田キャンパス(豊田市)

参加者 1,806名

懇親会 同キャンパス内 19号館2F プラザ・リスタ

参加者 110名

イベント企画	研究会提案企画	1 課題
	委員会提案企画	1 課題
	現地提案企画	1 課題
船井ベストペーパー賞選考会		10 講演
情報技術レターズ		137 講演
一般講演		716 講演

2. 国際会議に関する事項 (定款 第6条口, チ)

次のとおり開催した。

会議名	開催年月日	参加者数	論文数	場所	
The 22nd International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications (ITC-CSCC 2007)	2007.07.08 ~ 11	807	742	Busan, Korea	ESS
12th OptoElectronics and Communications Conference/ 16th International Conference on Integrated Optics and Optical Fiber Communication (OECC/IOOC2007)	2007.07.09 ~ 13	568	398	バシフィコ横浜	CS ES
Joint Workshop on Information Security (JWIS2007)	2007.08.06 ~ 07	94	46	早稲田大学(新宿区)	ISS
2007 International Symposium on Antennas and Propagation (ISAP2007)	2007.08.20 ~ 24	625	364	新潟コンベンションセンター	CS
2007 International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications (NOLTA 2007)	2007.09.16 ~ 19	174	140	Vancouver, Canada	ESS
International Workshop on Security (IWSEC2007)	2007.10.29 ~ 31	100	31	奈良	ESS
The 7th International Conference on Field-Programmable Technology (ICFPT'07)	2007.12.12 ~ 14	161	69	北九州国際会議場	ISS
13th Asia and South Pacific Design Automation Conference (ASP-DAC 2008)	2008.01.21 ~ 24	420	122	Seoul, Korea	ESS

3. 出版に関する事項 (定款 第6条イ)

3.1 和文論文誌の発行状況

各ソサイエティ別(A・B・C・D)に4種類をオンラインジャーナルで公開し、オプションとして冊子体を次のとおり発行・配布した。

掲載総ページ数は7,002ページである。

分類	Paper	Letter	その他	計	特集回数	発行部数
	件数 ページ数	件数 ページ数	件数 ページ数	件数 ページ数		
A	94	31	—	125	3	12,700
	942	144	152	1,238		
B	114	34	—	148	2	13,200
	1,166	154	152	1,472		
C	85	26	—	111	3	12,200
	794	80	152	1,026		
D	261	57	—	318	8	14,400
	2,868	222	176	3,266		
計	554	148	—	702	16	52,500
	5,770	600	632	7,002		

* その他: 総目次 58 ページ, 巻頭言 21 ページ, 英文誌紹介 111 ページ, 特集号募集案内等付物 442 ページ

3.2 英文論文誌の発行状況

各ソサイエティ別 (A・B・C・D) に4種類をオンラインジャーナルで公開し、オプションとして冊子体を次のとおり発行・配布した。

掲載総ページ数は11,994ページである。

分類 分冊	Paper	Letter	その他	計	特集回数 回	発行部数 部
	件数 ページ数	件数 ページ数	— ページ数	件数 ページ数		
A	300	113	—	413	12	11,600
	2,685	470	185	3,340		
B	341	221	—	562	9	12,200
	3,088	885	161	4,134		
C	247	48	—	295	13	11,900
	1,801	187	160	2,148		
D	211	72	—	283	7	11,500
	1,926	281	165	2,372		
計	1,099	454	—	1,553	41	47,200
	9,500	1,823	671	11,994		

*その他: 総目次121ページ, Abstract 155ページ, Foreword 61ページ, 特集号募集案内等付物 334ページ

3.3 電子ジャーナル

エレクトロニクスソサイエティでは、Webを用いたペーパーレス研究速報英文論文誌「IEICE Electronics Express (略称 ELEX)」(月2回発行)に129件、794ページを掲載した。平成20年度内にインパクトファクターが付与される予定となった。

3.4 ニュースレター、ソサイエティ誌の発行状況

各ソサイエティ及びグループでは活動の一環としてニュースレター、ソサイエティ誌を下記のとおり発行した。

(1) 基礎・境界ソサイエティでは、平成19年7月に新ソサイエティ誌「Fundamentals Review (ファンダム・レビュー)」を創刊した。

ファンダム・レビューは年4回発行する。従来のニュースレターの内容にとどまらず、学会誌よりも専門性の高い解説論文や関連分野の国際会議や研究会などの報告記事を掲載し、基礎・境界ソサイエティで扱う分野の最新技術動向をより分かりやすく提供することを旨とし、更に充実させる。創刊号のみ冊子で発行し、第2号以降Webでの配信を実施した。

発行回数:4回、総ページ数:254ページ(ニュースレター1回を含む)

(2) 通信ソサイエティ

マガジン誌(通信ソサイエティマガジン)

4回 424ページ

Global News Letter 4回 68ページ

(3) エレクトロニクスソサイエティ

ニュースレター 4回 32ページ

(4) 情報・システムソサイエティ

ニュースレター 5回 100ページ

(5) ヒューマンコミュニケーショングループ

ニュースレター 2回 8ページ

3.5 IEICE Transactions Online

特殊員に対して平成18年10月から試行的に導入しているサイトライセンスの試行期間を試行参加数が十分でないので平成21年3月までに延長した。

4. 選奨に関する事項(定款第6条ホ、へ)

所定の手続きによって選考が進められ、次のとおり各受賞者を決定した。

4.1 基礎・境界ソサイエティ

(1) 特別功労賞

業績	貢献者(所属)
Fundamentals Review 誌の創刊に対する多大の貢献	中村 勝洋(千葉大)

以上1件

(2) 功労賞

業績	貢献者(所属)
基礎・境界ソサイエティの独立採算化に対する多大の貢献	白木 善尚(湘南工大)
NOLTA'06 への General Co-Chair としての貢献	潮 俊光(阪大)
ISPACS への General Co-Chair とソサイエティ大会特別企画への貢献	伊藤 良生(鳥取大)
ASP-DAC 2006 への General Co-Chair としての貢献	広瀬 文保(日本ケイダンス・デザイン・システムズ社)
ASP-DAC 2007 への General Co-Chair としての貢献	小野寺秀俊(京大)
IWSEC2007 への Co-Chair としての貢献	森井 昌克(神戸大)
Fundamentals Review 誌の創刊に対する貢献	西尾 芳文(徳島大) 酒井 哲也(ニューズウォッチ)

以上8名

(3) 功労感謝状

業績	貢献者(所属)
システムと信号処理サブソサイエティおよび信号処理研究会への貢献	西川 清史(首都大東京)
暗号と情報セキュリティシンポジウム SCIS2007 開催幹事としての貢献	岡本 龍明(NTT)
英文論文誌 CIS 特集号編集幹事としての3年にわたる貢献	盛合 志帆(ソニー)
チュートリアル講演「デジタルコンテンツ保護関連技術」の企画等研究会活動発展への貢献	土井 洋(情報セキュリティ大学院大)
英文論文誌編集委員として、迅速かつ多大な編集作業の実行に対する功績	松尾 和人(情報セキュリティ大学院大) 古原 和邦(産総研) 北島 博之(香川大) 齊藤 泰一(東京電機大) 長谷川 浩(名大) 土肥 正(広島大)

以上10名

4.2 通信ソサイエティ

ソサイエティ論文賞

論文名	著者名(所属)
【優秀論文賞】 平面層状不均質媒質に対するダイアディックグリーン関数の簡略化と無損失 DNG スラブへの応用	宇野 亨(東京農工大)
LF および MF 電波のロケット観測による冬季夜間下部電離層の電子密度推定	芦原 佑樹(富山県立大) 石坂 圭吾(富山県立大) 岡田 敏美(富山県立大) 三宅 壯聡(富山県立大) 村山 泰啓(NICT) 長野 勇(金沢大)
UWB パルスレーダによる高速立体形状推定法の実験的検討	阪本 卓也(京大) 木寺 正平(京大) 佐藤 亨(京大) 杉野 聡(松下電工)

【招待論文賞】 レーダポーラリメトリにおけるデータ利用方法について	山口 芳雄(新潟大)
【Best Paper Award】 A Coaxial Line to Post-Wall Waveguide Transition for a Cost-Effective Transformer between a RF-Device and a Planar Slot-Array Antenna in 60-GHz Band	Takafumi KAI (東工大) Yusuke KATOU (東工大) Jiro HIROKAWA (東工大) Makoto ANDO (東工大) Hiroshi NAKANO (ユーディナデバイス(株)) Yasutake HIRACHI(東工大)
Adaptive MAP Detection via the EM Algorithm for LDPC-Coded MIMO-OFDM Mobile Communications	Tsuyoshi KASHIMA(東工大) Kazuhiko FUKAWA (東工大) Hiroshi SUZUKI (東工大)
【Best Letter Award】 An Efficient Signed-Power-of-Two Term Allocation for Filter Coefficients in Digital Communication System	Koichi ICHIGE(横浜国大) Hideaki MUNEMASA (横浜国大) Hiroyuki ARAI(横浜国大)
【Best Tutorial Paper Award】 Overlay Network Technologies for QoS Control	Tutomu MURASE(NEC) Hideyuki SHIMONISHI(NEC) Masayuki MURATA(阪大)
Recent Developments in and Challenges of Photonic Networking Technologies	Ken-ichi SATO (名大)
Statistical Multipath Propagation Modeling for Broadband Wireless Systems	Yoshio KARASAWA(電通大)

以上 10 編

4.3 エレクトロニクスサイエティ賞

分野	業績	貢献者(所属)
第1分野	ミリ波自己ヘテロダイン伝送技術に関する研究	莊司 洋三(NICT)
第2分野	半導体集積光デバイスの先駆的・独創的研究	中野 義昭(東大)
第3分野	該当なし	

以上 2 件

4.4 エレクトロニクスライター論文賞

論文名	著者名(所属)
表面活性化ダイレクトボンディングを用いた半漏れ型光アイソレータの製作	水本 哲弥(東工大) 齊藤日出紀(東工大)

以上 1 件

4.5 ELEX Best Paper Award

論文名	著者名(所属)
An optically clocked transistor array (OCTA) for 40-Gb/s, bidirectional serial-to-parallel conversion of asynchronous burst optical packets	Ryohei Urata (NTT) Ryo Takahashi (NTT) Tetsuya Suemitsu (NTT) Hiroyuki Suzuki (NTT)

以上 1 件

4.6 エレクトロニクスサイエティ学生奨励賞

分野	講演者(所属)
電磁波・マイクロ波	竹内 太志(東北大) 山田 英明(防衛大)
化合物半導体・光エレクトロニクス	白土 剛史(東北大) 山梨 裕希(横浜国大)
シリコン・エレクトロニクス一般	小倉 裕俊(横浜国大) 岩成 武司(中大)

以上 6 件

4.7 情報・システムサイエティ論文賞

論文名	著者名(所属)
【連作論文】 Details of the Nitech HMM-Based Speech Synthesis System for the Blizzard Challenge 2005	Heiga ZEN (名工大) Tomoki TODA (奈良先端大) Masaru NAKAMURA (名工大) Keiichi TOKUDA (名工大)
A Speech Parameter Generation Algorithm Considering Global Variance for HMM-Based Speech Synthesis	Tomoki TODA (奈良先端大) Keiichi TOKUDA (名工大)
A Hidden Semi-Markov Model-Based Speech Synthesis System	Heiga ZEN (名工大) Keiichi TOKUDA (名工大) Takashi MASUKO (東工大/東芝) Takao KOBAYASHI (東工大) Tadashi KITAMURA (名工大)

以上 1 編

4.8 FIT の各賞

(情報・システムサイエティ及びヒューマンコミュニケーショングループと情報処理学会との合同)

(1) 船井業績賞

業績	貢献者(所属)
JUNET および WIDE プロジェクトの設立をはじめとした日本のインターネット基盤の構築に指導的な役割	村井 純(慶大)

以上 1 件

(2) 船井ベストペーパー賞

論文名	受賞者(所属)
自動メモ化プロセッサの消費エネルギー評価	島崎裕介(名工大) 池内康樹(ACCESS) 津邑公暁(名工大) 中島 浩(京大) 松尾啓志(名工大) 中島康彦(奈良先端大)
Relative Innovator の発見によるパーソナライズ手法の提案	川前徳章(NTT) 山田武士(NTT) 上田修功(NTT)
ノイズのある環境下でオンライン学習が可能な自己増殖型ニューラルネットワークを用いた連想記憶モデル	須藤明人(東工大) 佐藤彰洋(東工大) 長谷川 修(東工大)

以上 3 編

(3) FIT 論文賞

論文名	受賞者(所属)
Analysis of an Edge Coloring Algorithm Using Chernoff Bounds	謝 旭珍(名大) 柳浦睦憲(名大) 小野孝男(名大) 平田富夫(名大)
大規模自律エージェントシステムにおける契約ネットワークプロトコルの効率特性	菅原俊治(早大) 福田健介(情報学研) 廣津登志夫(豊橋技科大) 栗原 聡(阪大)
低品質文字列を認識するための文字間空隙特徴の利用	石田皓之(名大) 高橋友和(名大) 井手一郎(名大) 村瀬 洋(名大)
“No news is good news” 規準を利用した行動教示の学習	田中一晶(京都工繊大) 左 祥(京都工繊大) 嵯峨野泰明(京都工繊大) 岡 夏樹(京都工繊大)
OS 資源ビューの仮想化を用いた分散システムテストベッド	西川賀樹(東大) 大山恵弘(電通大) 米澤明憲(東大)

P2P ネットワークのための分散ハッシュ型認証手法	武田敦志(東北文化学園大) 北形 元(東北大) 松島 悠 (新日鉄ソリューションズ) 木下哲男(東北大) 白鳥則郎(東北大)
視覚障害者向け案内システムの実証的評価	深澤紀子(鉄道総研) 水上直樹(鉄道総研) 松原 広(鉄道総研) 土屋隆司(鉄道総研)

以上7編

(4) FIT ヤングリサーチャー賞

候補者名	所属	講演番号	題 名
柳原 正	KDDI 研	D-035	次元圧縮を用いたクロスメディアレコメ ンテーション方式の提案
三玉政喜	横浜国大	LD-004	ユビキタス環境における概念階層と行動履 歴を用いた意味層構築支援
西村竜一	和歌山大	E-072	音声入力機能を有する対話型 Web アプリ ケーションの公開試験
齊藤剛史	鳥取大	H-016	唇および口内領域形状に基づくトラジェク トリ特徴量による読唇
高橋正樹	NHK 技研	H-064	パーティクルフィルタを用いたティー ショットシーンでのゴルフボール追跡
河合吉彦	NHK 技研	H-078	電子番組表に基づいた番組紹介映像の自動 生成手法の評価
中島奈緒	NHK 技研	I-012	AVC/H.264 によるスーパーハイビジョン コーデックの開発
志水信哉	NTT	LI-008	多視点映像符号化における残差予測を用い た View Synthesis Prediction フレームワーク
立石佑一郎	名大	LN-006	仮想環境ソフトウェアに基づくネットワークラ ブルシューティング実習環境提供システムの評価
鈴木貴史	名工大	O-012	迷惑メールフィルタリングアルゴリズムの 評価用メールセット

以上10編

5. 研究会等に関する事項(定款 第6条口, ハ)

5.1 基礎・境界ソサイエティ

研究専門委員会及び研究会を次のとおり開催した。

研究専門委員会：30回 第一種研究会：105回(うち地
方開催58回)

また、第二種研究会、第三種研究会及び学術研究集会を開
催した。

第一種研究会活動状況

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
回路とシステム	板倉 哲朗	5(4)	166
情報理論	高田 豊雄	5(3)	74
信頼性	柳 繁	9(6)	68
超音波	竹内 正男	11(3)	119
応用音響	牧野 昭二	11(7)	128
非線形問題	浅井 秀樹	8(6)	183
VLSI 設計技術	石浦菜岐佐	6(4)	175
情報セキュリティ	松井 充	6(2)	171
信号処理	貴家 仁志	8(7)	242
ワイドバンドシステム	小林 岳彦	6(2)	118
コンカレント工学	葛 崎偉	4(4)	58
思考と言語	亀田 弘之	5(2)	97
技術と社会・倫理	木下 宏揚	5(2)	61
安全性	中村 英夫	6(1)	41
ITS	伊丹 誠	6(2)	90
スマートインフォメディアシステム	荒川 薫	4(3)	93
合 計		105(58)	1,884

注：研究会開催数の()内は地方支部等での開催数

5.2 通信ソサイエティ

研究専門委員会及び研究会を次のとおり開催した。

研究専門委員会：60回 第一種研究会：132回(うち地
方開催91回)

別に、第二種研究会を開催した。

第一種研究会活動状況

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
アンテナ・伝播	堀 俊和	11(7)	207
宇宙・航行エレクトロニクス	小菅 義夫	10(4)	147
衛星通信	梅比良正弘	6(4)	75
環境電磁工学	井上 浩	10(5)	132
ネットワークシステム	三宅 功	10(8)	214
情報ネットワーク	斎藤 洋	10(8)	247
通信方式	若杉耕一郎	7(7)	129
電子通信エネルギー技術	長尾 道彦	6(2)	77
光通信システム	山林 由明	7(6)	85
無線通信システム	山尾 泰	9(6)	248
コミュニケーションクオリティ	石橋 豊	5(5)	95
フォトニックネットワーク	中野 義昭	6(4)	95
光ファイバ応用技術	立田 光廣	6(5)	73
テレコミュニケーションマネジメント	栗山 博	5(5)	72
モバイルマルチメディア通信	大矢 智之	6(5)	104
インターネットアーキテクチャ	山崎 克之	4(3)	53
ソフトウェア無線	高田 潤一	5(2)	118
アドホックネットワーク	間瀬 憲一	5(3)	82
ユビキタス・センサネットワーク	市川 晴久	4(2)	93
合 計		132(91)	2,346

5.3 エレクトロニクスソサイエティ

研究専門委員会及び研究会を次のとおり開催した。

研究専門委員会：30回 第一種研究会：117回(うち地
方開催65回)

また、第二種研究会を開催した。

第一種研究会活動状況

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
機構デバイス	曾根 秀昭	11(5)	142
磁気記録・情報ストレージ	本多 直樹	7(5)	65
超伝導エレクトロニクス	田辺 圭一	4(0)	34
電子ディスプレイ	飯村 靖文	6(1)	110
電子デバイス	葛原 正明	15(11)	270
電子部品・材料	上村 喜一	10(5)	167
電磁界理論	石原 豊彦	4(3)	150
シリコン材料・デバイス	浅野 種正	14(9)	280
マイクロ波	橋本 修	9(5)	186
集積回路	松澤 昭	8(6)	200
有機エレクトロニクス	工藤 一浩	12(6)	97
光エレクトロニクス	小山二三夫	10(4)	193
レーザ・量子エレクトロニクス	辻 伸二	7(5)	162
合 計		117(65)	2,056

5.4 情報・システムソサイエティ

研究専門委員会及び研究会を次のとおり開催した。

研究専門委員会：41回 第一種研究会：118回(うち地
方開催91回)

また、第二種研究会を開催した。

第一種研究会活動状況

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
ME とバイオサイバネティクス	村山 伸樹	9(8)	141
オフィスインフォメーションシステム	茨木 久	6(5)	103
画像工学	八島 由幸	10(9)	349
言語理解とコミュニケーション	中岩 浩巳	4(4)	102
コンピュータシステム	末吉 敏則	7(5)	118
コンピュータシオン	渡辺 治	7(6)	70
人工知能と知識処理	北村 泰彦	5(3)	72

ソフトウェアサイエンス	坂部 俊樹	6 (6)	77
データ工学	川越 恭二	3 (2)	127
パターン認識・メディア理解	馬場口 登	9 (8)	331
ディメンダブルコンピューティング	岩崎 一彦	7 (4)	123
ニューロコンピューティング	五味 裕章	8 (6)	202
知能ソフトウェア工学	山口 高平	6 (4)	69
音声	小林 隆夫	9 (7)	216
教育工学	横山 節雄	9 (7)	110
医用画像	藤田 広志	5 (4)	149
ソフトウェアインタプライズモデリング	松田 順	4 (0)	32
リコンフィギャラブルシステム	天野 英晴	4 (3)	84
合計		118 (91)	2,475

5.5 ヒューマンコミュニケーショングループ

研究専門委員会及び研究会を次のとおり開催した。

研究専門委員会：9回 第一種研究会：23回（うち地方開催18回）

また、第二種研究会及び第三種研究会を開催した。

第一種研究会活動状況

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
ヒューマンコミュニケーション基礎	米村 俊一	5 (3)	78
ヒューマン情報処理	加藤 博一	6 (6)	176
マルチメディア・仮想環境基礎	全 炳東	6 (5)	93
福祉情報工学	中山 剛	6 (4)	112
合計		23 (18)	459

6. データベースに関する事項（定款 第6条ハ、チ）

国立情報学研究所（NII）並びに、科学技術振興機構（JST）のデータベース作成に次のとおり協力した。

電子図書館（NII）：発行から2年遅れで全文公開

和・英論文誌，技術研究報告，総合大会発表論文，ソサイエティ大会発表論文

J-STAGE（JST）：抄録のみ公開

和・英論文誌，技術研究報告，総合大会発表論文，ソサイエティ大会発表論文

7. ソサイエティ及びグループ会員に関する事項（定款 第3章）

各ソサイエティ及びグループにおける会員数は次のとおりである。

	ESS	CS	ES	ISS	HCG	合計
平成18年度末登録数 ()はフェロー会員数	6,779 (109)	12,645 (158)	7,601 (135)	11,399 (165)	959	39,383 (567)
平成19年度末登録数 ()内はフェロー会員数	6,705 (112)	12,347 (187)	7,239 (135)	11,559 (173)	977	38,827 (607)
前年度との差	-74 (3)	-298 (29)	-362 (0)	160 (8)	18	-556 (40)

(注) ESS：基礎・境界ソサイエティ，CS：通信ソサイエティ，ES：エレクトロニクスソサイエティ，ISS：情報・システムソサイエティ
HCG：ヒューマンコミュニケーショングループ

Ⅲ. 支部事業

各支部において、講演会、講習会、見学会、大会等を次のとおり開催した。

1. 北海道支部

講演会	6回	研究会	48回
専門講習会	1回	学生会講演会	4回
支部連合大会	1回	学生会見学会	2回

2. 東北支部

学術講演会	11回	先端技術シンポジウム	1回
特別講演会	6回	支部連合大会	1回
地区講演会	3回	研究会	31回
専門講習会	1回	学生向け事業	3回

3. 東京支部

講演会	6回	研究会	188回
シンポジウム	5回	学生会講演会	2回
地域イベント	5回	学生会見学会	2回
見学会	4回	学生会研究発表会	1回
教育活動	12回	学生会報の発行	1回

4. 信越支部

講演会	14回	特別講演会	1回
専門講習会	1回	支部大会	1回
見学会	2回	研究会	15回

5. 東海支部

講演会	5回	研究会	36回
専門講習会	1回	学生会講演会	5回
見学会	1回	学生会見学会	1回
支部連合大会	1回		

6. 北陸支部

特別講演会	1回	研究会	18回
講演会	7回	学生会講演会	7回
支部連合大会	1回	学生研究発表会	1回
専門講習会	1回	学生会見学会	1回

7. 関西支部

講演会	2回	研究会	53回
中高生向け講演会	1回	情報通信技術講座	5回
専門講習会	3回	学生見学会	1回
見学会	1回	学生会研究発表会	1回
支部連合大会	1回		

8. 中国支部

講演会	14回	研究会	18回
専門講習会	2回	学生向け講演会	2回
見学会	1回	学生向け見学会	1回
支部連合大会	1回		

9. 四国支部

講演会	21回	学生会講演会	10回
専門講習会	1回	学生会展示会	2回
支部連合大会	1回	学生会見学会	1回
研究会	19回		

10. 九州支部

特別講演会	1回	支部連合大会	1回
講演会	6回	研究会	69回
専門講習会	1回	学生会講演会	1回
普及啓発活動	1回	学生会見学会	2回
JABEE講習会	1回		

役員、評議員及び代議員の改選結果報告

平成20年度の役員、評議員、代議員の改選は所定の手続きによって行われた。平成20年2月8日に正員に投票を依頼し、3月3日に締め切り、その開票結果を理事会に図り当選者を決定した。この結果、理事富永英義、安田 浩、雨宮真人、萩本和男、江村克己、森川博之、得井慶昌、喜多泰代、篠田庄司、古井貞熙、羽鳥光俊、大石進一、吉田 進、安藤真、末永康仁及び監事後藤 敏は退任することになり、新たに青山友紀、広崎彰太郎、吉田 進、村田正幸、秋葉重幸、田中良明、大村佳久、山田敬嗣、酒井善則、持田侑宏、羽鳥光俊、香田 徹、澤谷邦男、益 一哉、大田友一が理事に、正村達郎が監事に就任することになった。

また、役員・評議員は選出代議員となる。

なお、通常総会において退任、留任、新任される役員・評議員・代議員は次のとおりである。

役 職 名	退 任	留 任	新 任
会 長	富永 英義		宮原 秀夫
次 期 会 長	宮原 秀夫		青山 友紀
副 会 長 (在京)	安田 浩	津田 俊隆	広崎彰太郎
副 会 長 (地方)	雨宮 真人	伊藤 弘昌	吉田 進
総 務 理 事	萩本 和男	坂庭 好一	村田 正幸
会 計 理 事	江村 克己	高橋 達郎	秋葉 重幸
編 集 理 事	森川 博之	山本 浩治	田中 良明
企 画 理 事	得井 慶昌	西原 明法	大村 佳久
調 査 理 事	喜多 泰代	花澤 隆	山田 敬嗣
編 集 長 (理事)	篠田 庄司		酒井 善則
企 画 室 長 (理事)	古井 貞熙		持田 侑宏
規格調査会委員長 (理事)	羽鳥 光俊		羽鳥 光俊
		(会長)	(次期会長)
ESS 会長 (理事)	大石 進一	小林 欣吾	香田 徹
CS 会長 (理事)	吉田 進	間瀬 憲一	澤谷 邦男
ES 会長 (理事)	安藤 真	河内 正夫	益 一哉
ISS 会長 (理事)	末永 康仁	畑岡 信夫	大田 友一
監 事	後藤 敏	平田 康夫	正村 達郎
評 議 員 (在京)	伊東 晋	尾上 誠蔵	齋藤 洋
〃	太田 直久	桑原 秀夫	江村 克己
〃	岡田 忠信	阪田 史郎	中嶋 信生
〃	酒井 善則	土井美和子	松井 知子
〃	村上 篤道	三宅 功	梅比良正弘
評 議 員 (地方)	安達 文幸	生越 重章	尾家 祐二
〃	村上 孝三	木戸出正継	松永真由美
〃	(石井光雄)		
〃	島村 和典	小柴 正則	大柴小枝子
〃	中野 博隆	白鳥 則郎	根元 義章
〃	(森広芳照)		
評 議 員 (会長指名)	横矢 直和	安浦 寛人	北山 研一
〃	秋葉 重幸	荒川 薫	浅見 徹
〃	石塚 勝	小館香椎子	石塚 勝
〃	谷岡 健吉	古池 進	計 宇生
〃	(榎並和雅)		
〃	大柴小枝子	菅原 一孔	小林 岳彦
〃	計 宇生	趙 晋輝	小林 直人
〃	小林 岳彦	富田 義数	佐藤 健一
〃	関根 好文	西澤 台次	関根 好文
〃	田辺 史朗	林 秀樹	田辺 史朗
〃	(畑岡信夫)		

〃	古田 洋介	福沢 恵司	谷岡 健吉
〃	村田 正幸	李 可人	山内 良三
評 議 員	野矢 厚		*小柴 則郎
〃	羽深 龍二		*白鳥 純道
〃	東京支部長 喜連川 優		荒木 正幸
〃	信越支部長 島田 正治		宮澤 聖一
〃	東海支部長 伊藤 卓志		中川 福田
〃	北陸支部長 松本 忠		加藤 雅敏
〃	関西支部長 山下 勝己		森川 良介
〃	中国支部長 藤岡 清人		木内 陽介
〃	四国支部長 樋口 弘志		山下 雅史
〃	九州支部長 相川 正義		
評 議 員 (学生会顧問)			
〃	北海道支部 佐野 栄一		鈴木 正清
〃	東北支部 杉浦 義人		佐藤 公男
〃	東京支部 黒川 弘章		藤井 威生
〃	信越支部 半田 志郎		柄沢 直之
〃	東海支部 井 研治		杉浦 敏文
〃	北陸支部 椎名 徹		八木谷 聡
〃	関西支部 梶川 嘉延		南 繁行
〃	中国支部 梶木 雅之		片桐 英樹
〃	四国支部 岩下 克		都築 伸二
〃	九州支部 田中 哲郎		末次 正

備考：() 内は年度の途中において交代した前任者を示す。

注意：*印は既に選挙で選出された評議員(地方)であるため、会長指名評議員にはしない者。

役 職 名	退 任	留 任	新 任
互選代議員	石原 康利	浅野 敏郎	芥川 正武
〃	泉田喜一郎	荒川 賢一	石黒 義英
〃	市毛 弘一	伊藤 哲郎	泉田喜一郎
〃	井 研治	宇野 健	伊藤 建一
〃	今井 一雅	大崎 淳	井原 武
〃	宇佐見正士	榊 勇一	植田 和憲
〃	上林 真司	加藤 浩介	内田 誠一
〃	上原 秀幸	河田 淳治	榎本 崇宏
〃	小野寺秀俊	久保田周治	大田 豊栄
〃	大久保賢祐	栗山 繁	太田 正哉
〃	大演 靖匡	近藤 和弘	大淵 康成
〃	大森 浩史	佐藤 健一	金井 浩
〃	岡本 好弘	佐藤 茂雄	上武 信夫
〃	加藤 暢	佐藤 誠	川本 一彦
〃	片山 統裕	重田 和弘	栗山 繁
〃	金子 峰雄	白井 秀一	桑門 秀典
〃	菊岡 信良	白木 善尚	小鹿 哲
〃	北村 義弘	高橋 広基	白川 英規
〃	行場 次朗	高橋 琢二	杉村 幸子
〃	金 亨燮	竹部 洋	武田 幸子
〃	熊耳 浩	田中 賢	武山 真弓
〃	渋谷 徹	常田 明夫	田村 裕
〃	鈴木三知男	出口 博之	塚田 章
〃	田中 二郎	中川 健治	辻 伸二
〃	竹下 哲義	中川 真也	長嶋 祐二
〃	辻岡 哲夫	中島 康雄	中谷 祐介
〃	土橋 宜典	中城 智之	波平 宜敬
〃	中島 康治	仲村 泰明	野口 啓介
〃	中村 隆	西 仁司	野矢 厚
〃	長尾 智晴	野口 一博	橋場 寛之
〃	波平 宜敬	福村 直博	林田 行雄
〃	橋場 寛之	藤田 輝雄	張山 昌論
〃	林田 行雄	前田 賢一	福村 直博
〃	廣瀬 明	松居 真一	藤島 実
〃	藤井 俊彰	松山 光司	堀田 英一
〃	藤岡 清人	三島 瑛人	水本 哲弥
〃	牧野 哲也	宮尾 淳一	宮崎 守泰
〃	水本 和樹	宮野 信治	柳澤 政生
〃	村上 秀男	宮原 未治	山口 雅史
〃	湯川 高志	村島 定行	山本 学
〃	吉澤 聡	安井 寛治	横矢 直和
〃		矢野 健剛	若林 秀昭
〃		山口 雅史	綿谷 信義
〃		渡邊 敏明	